

官報

號外 昭和十三年二月二十五日

○第七十三回衆議院議事速記録第十七號

昭和十三年二月二十四日(木曜日)

午後一時十八分開議

議事日程 第十六號

昭和十三年二月二十四日

午後一時開議

第一 國家總動員法案(政府提出)

第一讀會

第二 商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第三 商法中改正法律施行法案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第四 有限會社法案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第五 日滿司法事務共助法案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第六 社會事業法案(政府提出)

第一讀會

第七 商店法案(政府提出)

第一讀會

第八 石油資源開發法案(政府提出)

第一讀會

第九 樺太地方鐵道補助法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第十 昭和十二年法律第九十二號中改正法律案(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第十一 民法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第十二 民事訴訟法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

府提出、貴族院送付)

第一讀會

第十三 外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

○議長(小山松壽君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

(書記官朗讀)

一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

簡易生命保險法中改正法律案

(以上二月二十四日提出)

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲

茲ニ掲載ス)

一議員ノ異動左ノ如シ

新潟縣第三區選出議員大竹貫一君退職者トナリタルニ付其ノ補闕トシテ藤井浩然君當選セラレタリ

一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

昭和十一年度歲入歳出總決算

昭和十一年度各特別會計歳入歳出決算

昭和十一年度歳入歳出決算検査報告

(以上二月二十三日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

傷痍軍人並戰公傷病死者遺族等ノ鐵道船舶等乘車船優遇ニ關スル法律案

提出者 江藤源九郎君

刑法中改正法律案

提出者

一松 定吉君

八並 武治君

高橋 義次君

手代木隆吉君

內藤 正剛君

中山 福藏君

松井 郡治君

手代木隆吉君

刑事訴訟法中改正法律案

提出者

內藤 正剛君

本田彌市郎君

一松 定吉君

手代木隆吉君

刑事判決宣告猶豫ニ關スル法律案

提出者

一松 定吉君

本田彌市郎君

松井 郡治君

陪審法中改正法律案

提出者

內藤 正剛君

本田彌市郎君

松井 郡治君

司法書士法中改正法律案

提出者

中山 福藏君

高橋 義次君

松井 郡治君

行政執行法中改正法律案

提出者

一松 定吉君

原 夫次郎君

八並 武治君

松井 郡治君

行政書士法案

提出者

中山 福藏君

高橋 義次君

手代木隆吉君

私生子ノ名稱ニ關スル法律案

提出者

內藤 正剛君

手代木隆吉君

理容師法案

提出者

中山 福藏君

內藤 正剛君

一松 定吉君

理容師法案

提出者

中山 福藏君

一松 定吉君

松井 郡治君

內藤 正剛君

我力國號ノ稱呼統一ニ關スル建議案

提出者

佐藤 與一君

境港第二期修築工事速成ニ關スル建議案

提出者

三好榮次郎君

伊東下田間鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者

高木泰太郎君

傷痍軍人並軍屬優遇ニ關スル建議案

提出者

津倉 龜作君

淺沼稻次郎君

提出者

田原 春次君

武道審議會設置ニ關スル建議案

提出者

藤生安太郎君

吉植 庄亮君

橫川 重次君

佐藤洋之助君

現行借地法施行地區擴大ニ關スル建議案

提出者

宮澤 裕君

武道審議會設置ニ關スル建議案

提出者

鶴 惣市君

江藤源九郎君

提出者

小池 四郎君

長崎港改修並第一種重要港灣編入ニ關スル建議案

提出者

立川 平君

倉成庄八郎君

提出者

佐保 畢雄君

太田 理一君

西岡竹次郎君

官報號下

昭和十三年二月二十五日

衆議院議事速記録第十七號

議長ノ報告

國道五號線中最上郡內路線改修促進ニ關スル建議案

提出者 松岡 俊三君

長崎上海間通信機關擴充ニ關スル建議案

提出者 倉成庄八郎君 太田 理一君

佐保 畢雄君 西岡竹次郎君

龜岡茨木間鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者 田中 好君 曾和 義式君

島原鐵道並口之津鐵道買収ニ關スル建議案

提出者 太田 理一君 倉成庄八郎君

佐保 畢雄君 西岡竹次郎君

貿易振興上ノ諸機關充實ニ關スル建議案

提出者 倉成庄八郎君 太田 理一君

佐保 畢雄君 西岡竹次郎君

武道審議會設置ニ關スル建議案

提出者 三輪 壽壯君 田原 春次君

三宅 正一君 三浦 虎雄君

(以上二月二十三日提出)

一 去二十二日衆議院規則第十五條ニ依リ議長ニ於テ議席ヲ左ノ通指定セリ

二 一四 藤井 浩然君

一 去二十二日辭任シタル常任委員左ノ如シ

第五部選出豫算委員 江藤源九郎君

一 去二十一日第三部選出請願委員南條德男君ハ退職者トナリタリ

一 去二十二日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

重要礦物増産法案(政府提出)外一件委員

寺島 權藏君 高橋壽太郎君

野田文一郎君 小山 谷藏君

栗山 博君 篠原 陸朗君

原 玉重君 森下 國雄君

松尾 三藏君 山田 順策君

森田 福市君 瀧澤 七郎君

金澤 正雄君 板谷 順助君

砂田 重政君 青山 憲三君

川崎巳之太郎君 松山常次郎君

中田 儀直君 寺田 市正君

中野 寅吉君 朴 春 琴君

藤本 拾助君 加藤 鍊造君

松永 義雄君 道家齊一郎君

小野 謙一君

一 去二十二日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

電力管理法(政府提出)外三件委員

辭任河上丈太郎君 補關田原 春次君

一 去二十一日電力管理法(政府提出)外三件委員南條德男君ハ退職者トナリタルニ付其ノ補關トシテ牧野良三君ヲ去二十二日議長ニ於テ選定セリ

一 昨二十三日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

重要礦物増産法案(政府提出)外一件委員

委員長 森田 福市君

理事 寺島 權藏君 高橋壽太郎君

瀧澤 七郎君 中田 儀直君

中野 寅吉君

一 昨二十三日常任委員補關選舉ノ結果左ノ如シ

第三部選出 松尾 孝之君(南條德男君請願委員 補關)

第五部選出 赤松 克磨君(江藤源九郎算豫委員 君補關)

○議長(小山松壽君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、此際一言致シマス、昨二十三日ヲ以テ會期三分ノ二ニ達シマシタカラ、本日ヨリハ先例ニ依リマシテ本會議ハ火曜日、木曜日、土曜日以外ニ於テモ議長ニ於テ隨時開

キ得ルコト、本會議中委員會開會ノ件ハ院議ニ諮フコトナク議長ニ於テ許可シ得ルコト、又法律案ハ定規ノ時日ニ拘ラズ上程シ得ルコトト致シマス

本日近衛內閣總理大臣ハ病氣ノ爲メ出席致シ兼スルトノ趣デアリマス、日程第一、國家總動員法案、第一讀會ヲ開キマス——國務大臣廣田弘毅君

第一 國家總動員法案(政府提出) 第一讀會

國家總動員法案

第一條 本法ニ於テ國家總動員トハ戰時(戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム以下之ニ同ジ)ニ際シ國防目的達成ノ爲ノ全力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル様人的及物的資源ヲ統制運用スルヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ總動員物資トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 兵器、艦艇、彈藥其ノ他ノ軍用物資

二 國家總動員上必要ナル被服、食糧飲料及飼料

三 國家總動員上必要ナル醫藥品、醫療機械器具其ノ他ノ衛生用物資及家畜衛生用物資

四 國家總動員上必要ナル船舶、航空機、車輛、馬其ノ他ノ輸送用物資

五 國家總動員上必要ナル通信用物資

六 國家總動員上必要ナル土木建築用物資及照明用物資

七 國家總動員上必要ナル燃料及電力

八 前各號ニ掲グルモノノ生産、修理、配給又ハ保存ニ要スル原料、材料、機械器具、裝置其ノ他ノ物資

九 前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル物資

第三條 本法ニ於テ總動員業務トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 總動員物資ノ生産、修理、配給、輸出、輸入又ハ保管ニ關スル業務

二 國家總動員上必要ナル運輸又ハ通信ニ關スル業務

三 國家總動員上必要ナル金融ニ關スル業務

四 國家總動員上必要ナル衛生、家畜衛生又ハ救護ニ關スル業務

五 國家總動員上必要ナル教育訓練ニ關スル業務

六 國家總動員上必要ナル試驗研究ニ關スル業務

七 國家總動員上必要ナル情報又ハ啓發宣傳ニ關スル業務

八 國家總動員上必要ナル警備ニ關スル業務

九 前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル業務

第四條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要ナル勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民ヲ徵用シテ總動員業務ニ從事セシムルコトヲ得但シ兵役法ノ適用ヲ妨ゲズ

第五條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要ナル勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國法人其ノ他ノ團體ヲシテ國又ハ地方公共團體ノ行フ總動員業務ニ付協力セシムルコトヲ得

第六條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要ナル勅令ノ定ムル所ニ依リ從業者ノ使用、雇入若ハ解雇又ハ賃金其ノ他ノ勞働條件ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第七條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要ナル勅令ノ定ムル所ニ依リ勞働爭議ノ豫防若ハ解決ニ關シ必要ナル

命令ヲ爲シ又ハ作業所ノ閉鎖、作業若ハ勞務ノ中止其ノ他ノ勞働爭議ニ關スル行爲ノ制限若ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第八條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産、修理、配給、讓渡其ノ他ノ處分、使用、消費、所持及移動ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第九條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ輸出若ハ輸入ノ制限若ハ禁止ヲ爲シ、輸出若ハ輸入ヲ命ジ、輸出税若ハ輸入税ヲ課シ又ハ輸出税若ハ輸入税ヲ増課若ハ減免スルコトヲ得

第十條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第十一條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會社ノ設立、資本ノ増加、合併、目的變更、社債ノ募集若ハ第二回以後ノ株金ノ拂込ニ付制限若ハ禁止ヲ爲シ、會社ノ利益金ノ處分、償却其ノ他經理ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ銀行、信託會社、保險會社其ノ他勅令ヲ以テ指定スル者ニ對シ資金ノ運用ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十二條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ總動員業務タル事業ヲ營ム會社ノ當該事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲メノ社債ノ募集又ハ資本ノ増加ニ付商法第二百條又ハ第二百十條ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十三條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル事業ニ屬スル工場、事業場、船舶其ノ他ノ施設又ハ之ニ轉

用スルコトヲ得ル施設ノ全部又ハ一部ヲ管理、使用又ハ收用スルコトヲ得

政府ハ前項ニ掲グルモノヲ使用又ハ收用スル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ從業者ヲ供用セシメ又ハ當該施設ニ於テ現ニ實施スル特許發明若ハ登録實用新案ヲ實施スルコトヲ得

政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務ニ必要ナル土地又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ管理、使用又ハ收用スルコトヲ得

第十四條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ鑛業權、砂鑛權及水ノ使用ニ關スル權利ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第十五條 前二條ノ規定ニ依リ收用シタルモノ不用ニ歸シタル場合ニ於テ收用シタル時ヨリ十年内ニ拂下グルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ舊所有者若ハ舊權利者又ハ其ノ一般承繼人ハ優先ニ之ヲ買受クルコトヲ得

第十六條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ制限若ハ禁止シ又ハ總動員業務タル事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

第十七條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル同種若ハ異種ノ事業ノ事業主間ニ於ケル當該事業ニ關スル統制協定ノ設定、變更若ハ廢止ニ付認可ヲ受ケシメ、統制協定ノ設定、變更若ハ取消ヲ命ジ又ハ統制協定ノ加盟者若ハ其ノ統制協定ニ加盟セザル事業主ニ對シ其ノ統制協定ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十八條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員

上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル同種又ハ異種ノ事業ノ事業主ニ對シ當該事業ノ統制ヲ目的トスル組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ組合ハ法人トス

第一項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者其ノ設立ヲ爲サザルトキハ政府ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ組合成立シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ當該組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ヲシテ其ノ組合ノ組合員タラシムルコトヲ得

政府ハ第一項ノ組合ニ對シ其ノ組合員ノ營業ニ關スル統制規程ノ設定、變更若ハ廢止ニ付認可ヲ受ケシメ、統制規程ノ設定若ハ變更ヲ命ジ又ハ其ノ組合員ニ對シ組合ノ統制規程ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第一項ノ組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ價格、運送賃、保管料、保險料、賃賃料又ハ加工賃ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ新聞紙其ノ他ノ出版物ノ掲載ニ付制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

政府ハ前項ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル新聞紙其ノ他ノ出版物ニシテ國家總動員上支障アルモノノ發賣及頒布ヲ禁止シ之ヲ差押フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ併セテ其ノ原版ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國臣民ヲ雇傭若ハ使用スル者ヲ

シテ帝國臣民ノ職業能力ニ關スル事項ヲ申告セシメ又ハ帝國臣民ノ職業能力ニ關シ檢査スルコトヲ得

第二十二條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ學校、養成所、工場、事業場其ノ他技能者ノ養成ニ適スル施設ノ管理者又ハ養成セラルベキ者ノ雇傭主ニ對シ國家總動員上必要ナル技能者ノ養成ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産、販賣又ハ輸入ヲ業トスル者ヲシテ當該物資又ハ其ノ原料若ハ材料ノ一定數量ヲ保有セシムルコトヲ得

第二十四條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル事業ノ事業主又ハ戰時ニ際シ總動員業務ヲ實施セシムベキ者ヲシテ戰時ニ際シ實施セシムベキ總動員業務ニ關スル計畫ヲ設定セシメ又ハ當該計畫ニ基キ必要ナル演練ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十五條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ總動員物資ノ生産若ハ修理ヲ業トスル者又ハ試驗研究機關ノ管理者ニ對シ試驗研究ヲ命ズルコトヲ得

第二十六條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産又ハ修理ヲ業トスル者ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ一定ノ利益ヲ保證シ又ハ補助金ヲ交付スルコトヲ得此の場合ニ於テ政府ハ其ノ者ニ對シ總動員物資ノ生産若ハ修理ヲ爲サシメ又ハ國家總動員上必要ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十七條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第八條、第十條、第十三條若ハ第十四條ノ規定ニ依ル處分、第九條ノ規定

ニ依ル輸出若ハ輸入ノ命令、第十一條ノ規定ニ依ル資金ノ融通若ハ有價證券ノ應募、引受若ハ買入ノ命令又ハ第十六條ノ規定ニ依ル設備ノ新設、擴張若ハ改良ノ命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

第二十八條 政府ハ第二十二條、第二十三條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ命令ヲ爲ス場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償シ又ハ補助金ヲ交付ス

第二十九條 前二條ノ規定ニ依ル補償ノ金額及第十五條ノ規定ニ依ル拂下ノ價額ハ總動員補償委員會ノ議ヲ經テ政府之ヲ定ム

總動員補償委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 政府ハ第二十六條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ利益ノ保證又ハ補助金ノ交付ヲ受クル事業ヲ監督シ之ヲ爲必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第三十二條 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル物ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第七條ノ規定ニ依ル命令又ハ制限若ハ禁止ニ違反シタル者

二 第八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲サザル者

四 第十條ノ規定ニ依ル總動員物資ノ使用又ハ收用ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

五 第十三條ノ規定ニ依ル施設、土地若ハ工作物ノ管理、使用者ハ收用又ハ從業者ノ供用ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

六 第十九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十一條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者

二 第十六條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者

三 第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケズシテ統制協定若ハ統制規程ヲ設定、變更若ハ廢止シ又ハ第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四 第二十三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ保有ヲ爲サザル者

五 第二十六條ノ規定ニ違反シ生産、修理又ハ設備ヲ爲サザル者

第三十五條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第三十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ規定ニ依ル徵用ニ應ゼズ又ハ同條ノ規定ニ依ル業務ニ從事セザル者

二 第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

二 第二十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ計畫ノ設定又ハ演練ヲ爲サザル者

三 第二十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ試驗研究ヲ爲サザル者

第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ組合ノ設立ヲ爲サザル者

二 第三十條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

三 第三十條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

第三十九條 第二十條第一項ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ發行人及編輯人、其ノ他ノ出版物ニ在リテハ發行者及著作者ヲ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

新聞紙ニ在リテハ編輯人以外ニ於テ實際編輯ヲ擔當シタル者及掲載ノ記事ニ署名シタル者亦前項ニ同ジ

第四十條 第二十條第二項ノ規定ニ依ル差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 前二條ノ罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セズ

第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 第二十一條ノ規定ニ違反シテ申告ヲ怠リ又ハ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第四十四條 總動員業務ニ從事シタル者其ノ業務遂行ニ關シ知得シタル當該官廳指定ノ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者職務上知得シタル當該官廳指定ノ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第四十五條 公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ノ規定ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル法人又ハ人ノ業務上ノ秘密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 第十八條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ設立シタル組合ノ役員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第四十七條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十八條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第三十二條乃至第三十四條、第三十六條第二號、

第三十七條、第三十八條又ハ第四十三條前段ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ各本條ノ罰金刑又ハ科料刑ヲ科ス

第四十九條 前條ノ規定ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ本法ノ罰則ハ本法施行地外ニ於テ罪ヲ犯シタル帝國臣民ニモ之ヲ適用ス

第五十條 本法施行ニ關スル重要事項(軍機ニ關スルモノヲ除ク)ニ付政府ノ諮問ニ應ズル爲國家總動員審議會ヲ置ク國家總動員審議會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

軍需工業動員法及昭和十二年法律第八十八號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前軍需工業動員法ニ基キテ爲シタル命令又ハ處分ハ之ヲ本法中ノ相當規定ニ基キテ爲シタルモノト看做ス

軍需工業動員法ニ違反シタル者ノ處罰ニ付テハ仍舊法ニ依ル

國務大臣(廣田弘毅君)

本日ハ總理大臣病氣ノ爲メ私代ッテ登壇致シタモノデアリマス

只今議題トナリマシタ國家總動員法案ニ付テ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス

近代戰ノ特色ハ所謂國力戰ニアルノデアリマシテ、戰爭ノ目的達成ノ要訣ハ、一ニ陸海軍ノ奮闘ト國家總動員態勢ノ完備トニ存スルデアリマス、而シテ國家總動員ノ趣旨ハ、國防ノ爲メ物心兩方面ニ互リ國家

ノ全能力ヲ發揮スルノニアリマス、即チ本法ノ適切ナル運用ニ依リマシテ、軍需品ヲ充足シテ陸海軍ニ不斷ノ戰鬪力ヲ供給スルト同時ニ、民需品ヲ補給シテ國民經濟ノ運行ヲ確保セントスルノデアリマシテ、國民ノ愛國心ヲ基礎トシ、舉國一致ノ協力ニ依ッテ、初メテ其效果ヲ完ウスルコトヲ得ルノデアリマス、政府ハ時局ニ鑑ミマシテ、國家總動員ノ實施ニ法的根據ヲ與フルノ必要ヲ認メ、茲ニ本案ヲ提出シタル次第デアリマス、何卒十分御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ切望致シマス(拍手)

議長(小山松壽君) 質疑ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許シマス齋藤隆夫君

(齋藤隆夫君登壇)

齋藤隆夫君 本案提出ノ理由ハ只今廣田國務大臣ノ説明セラレマシタルガ如ク、又此法案ノ第一條ニ現レテ居リマスルガ如ク、戰時若クハ戰爭ニ準ズベキ事變ニ當リマシテ、日本全國ニ跨ッテ人的ノ統制ヲ爲シ、物のノ統制ヲ爲ス、即チ人間ト物質此兩者ヲ併セテ統制ヲ爲シ、之ニ依ッテ憲法上ニ保障セラレテ居リマスル所ノ日本臣民ノ權利自由及ビ財產、一言ニシテ申シマサルナラバ、即チ國民ノ生存權、之ニ向ッテ一大制限ヲ加ヘントスルモノデアリマスルガ、之ヲ今日國家ノ現情ニ照シテ、斯ノ如キ立法ガ果シテ必要デアルカナイカ、又假令是ガ必要デアルト致シマシテモ、其内容ガ適當ナモノデアルカナイカ、更ニ立法ノ方法、立法ノ形式ニ缺クル所ハナイカ、凡ソ是等ノコトハ吾々ガ本案ヲ審議スルニ當リマシテ、極メテ眞剣ニ檢討セネバナラヌ所ノ重大ナル問題デアルノデアリマス(拍手)

日支事變ハ意想外ニ擴大シタノデアアル、當初政府ガ考ヘテ居リマシタル所ノ所謂現地解決、事件不擴大方針、此方針ハ立ドコロニ裏切ラレタ、敵ノ挑發ニ依ッテ立ドコロニ裏切ラレマシテ、其後事態ハ日ニ月ニ擴大シテ殆ド底止スル所ハナイ、遂ニ今日ノ現狀ヲ來シタノデアリマス、而シテ今日ノ現狀ヨリ見マスルナラバ、事變ノ將來ハ全ク測リ知ルベカラズ、東亞ニ於ケル完全ナル平和克復ノ時ヲ迎ヘルコトハ、前途頗ル遠ト見ナクテハナラナイ、加之此事件ガ本トナリマシテ、所謂一波萬波ヲ呼ビ起シ、世界列國ノ形勢ノ上ニモ或ル程度ノ變化ガ現レテ居ル、國際情勢ハ極メテ複雑且ツ微妙ナ關係ヲ惹キ起シテ居ルコトハ、爭フコトノ出來ナイ事實デアリマシテ、邦家ノ前途實ニ容易ナラズデアリマス、此秋ニ當リマシテ、何ヲ差措イテモ國防ヲ強化セネバナラス、近代ノ國防ヲ強化スルガ爲ニハ、全國ニ跨ッテ或ル程度ニ於テ人的ノ統制ヲ爲ス必要ガアル、物的ノ統制ヲ爲ス必要ガアル、此必要ヨリシテ國家總動員法ヲ制定スルト云フ政府ノ所信ニ對シテハ、十分傾聽スベキ値打ハアルノデアリマス、併ナガラ吾々ハ此場合ニ於テ此法案ヲ審議スルニ當テ、オ五ニ忘レテハナラナイコトガアル、ソレハ何デアルカ、即チ今日ノ國家組織デアリマス、今日ノ政治組織デアアルノデアリマス、今日ノ政治組織ノ下ニ於キマシテハ、唯獨リ立法行爲バカリデハナイ、又唯獨リ行政行爲バカリデハナイ、凡ソ百般ノ國家行爲ヲ爲スニ當ッテハ、自ラ一定ノ軌道ガアルノデアリマス、政府ト云ハズ、議會ト云ハズ、此軌道ヲ離レテハ一切ノ政治行爲ヲ爲スコトハ許サレナイノミナラズ、此軌道ニ向ッテ進ムコトガ、即チ國家ノ目的ヲ達スル最良ノ方法デアリ、此軌道ヲ踏ミ外スコトハ、即チ國家ノ目的ニ反逆スル行爲トナルノデアリマス(拍手)然ラバ其軌道トハ何デアルカ、申ス迄モナク憲法ノ條規デアリマス、併セテ其條規ノ上ニ輝ク所ノ憲法ノ大精神デアアルノデアリマス、ソレ故ニ議會ガ立法ヲ爲シ、政府ガ行政ヲ爲ス、如何ナル場合ニ當ッテモ此條規ヲ踏ミ外スコトハ出來ナイ、之ヲ案ル

所ノ一切ノ行爲ハ許サレナイ、ソレ故ニ現在及ビ將來何人ト雖モ、如何ナル名義ヲ以テスルニ拘ラズ、苟且ニ此條規ヲ案ルガ如キ者ガアリマスルナラバ、吾々ハ斷乎トシテ之ヲ排撃スル(拍手)之ヲ排撃スルコトハ吾々ガ憲法ニ對シ、又國家ニ對スル最高ノ忠節ナリト心得テ居リマス(拍手)今回政府ガ本案ヲ起草セルハ、ニ當リマシテハ、固ヨリ是等ノ方面ニ付テハ細心ノ注意ヲ加ヘラレタニ相違アリマセヌ、併シ私ノ見ル所ニ依リマスルト、此點ニ於テ相當疑ヲ挿ムモノアリト思慮致シマスルニ依ッテ、是ヨリ此關係ニ於テ、極メテ大體ニ互ッテ二三ノ質問ヲ致スノデアリマスカラ、其御積リデ御聽取ヲ願ヒタイノデアリマス

第一ハ本案ト憲法第三十一條トノ關係デアリマス、本案ハ第一條ヨリ第五十條マデゴザイマスルガ、之ヲ概括シテ申シマスルナラバ、憲法ニ保障セラレテ居リマスル所ノ日本臣民ノ權利自由、法律ニ依ルニアラザレバ制限スルコトハ出來ナイ、法律ニ依ルニアラザレバ剝奪スルコトハ出來ナイ此權利自由ヲ、法律ニ依ラズシテ勅令ヲ以テ之ヲ左右セントスルノデアリマス、而シテ此法律ハ戰時及ビ事變ノミニ適用セラレルノデアアル、其以前ニ於テハ適用セラレナイ、又其以後ニ於テモ適用スベカラザルモノデアルト云フコトハ、是ハ明カデアアル、所ガ憲法第三十一條ニハ如何ナルコトガ規定シテアルカト見ルト「本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ 天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ」本章トハ即チ憲法第二章ゴザイマシテ、此第二章ニ掲ゲテアリマスル所ノ臣民ノ權利自由ハ、普通ノ場合ニ於テハ法律ヲ以テスルニアラザレバ制限スルコトハ出來ナイガ、戰時事變ニ限ッテハ法律ニ依ラズシテ、天皇大權ノ發動タル勅令ヲ以テモ自由ニ之ヲ制限スルコトガ出來ル、憲法ニ於テ斯ウ云フ規定ガ設ケラレマ

シタ趣旨ハ、別ニ説明スル迄モナク、政府當局者ニ於テモ十分御承知ノ通りデアル、伊藤公ノ憲法義解ニモ明記シテアリマスル通りニ、國家非常ノ場合ニ當リテ、國家ノ獨立ヲ保全スルガ爲ニ萬已ムラ得ナイ規定デゴザイマシテ、之ヲ稱シテ、天皇ノ非常大權トモ稱シテ居ルノデアル、斯ノ如ク憲法第二章ニ規定セル臣民ノ權利自由ハ、普通ノ場合ニ於キマシテハ、法律ニ依ルニアラザレバ制限スルコトハ出來ナイガ、戰時事變ニ當リテハ大權ノ發動タル勅令ニ依リテモ亦制限スルコトガ出來ルノデアル、併シ勅令ニ依リテモ制限スルコトガ出來ルト云フコトハ、反對ニ法律ニ依リテハ制限ガ出來ナイト云フ趣旨デハナイ、即チ法律ニ依リテモ出來レバ勅令ニ依リテモ出來ル、言葉ヲ換ヘテ申シマスルナラバ、此關係ハ法律事項デアルト共ニ勅令事項デアル、勅令事項デアルト共ニ法律事項デアル、即チ法律ト勅令トノ共同區域ニ屬スルモノデアルコトハ爭ハレナイ、然ル所此法案ノ内容ヲ見マスレバ、此共同區域ニ屬スル事項ヲ勅令ニ規定スルガ爲ニ、特ニ議會ノ協賛ヲ求メントスルモノデアル、茲ニ憲法上ノ疑ガ起ルノデアリマス、即チ法律勅令共同區域ニアツテハ、法律ヲ以テ規定スルコトノ出來ルハ無論ノコト、其他全然法律ニ基カザル獨立ノ勅令ヲ以テモ、規定スルコトガ出來ルノデアル、而シテ獨立ノ勅令ヲ以テ規定スルコトガ出來ル其事項ヲ、今回勅令ヲ以テ規定セントスルニ當リテハ、別ニ議會ノ協賛ヲ要シナイ、要シナイバカリデナク、之ニ向ッテハ議會ハ一切干渉スルコトハ出來ナイ、若シ之ニ向ッテ議會ガ干渉スルコトニナリマスルナラバ、ソレコソ大權ノ獨立ヲ侵スコトナルノデアリマス、憲法ノ法理解釋ハ斯クナラザル得ナイト思ハレルノデアリマスガ、政府ハドウ考ヘテ居ラル、カ、若シ此解釋ガ正シキモノデ

アルトスルナラバ、本案ハ根柢カラ崩壊セネバナラスノデアル、政府ハ如何ナル見解ノ下ニ於テ此法案ヲ起草セラレタノデアルカ、先以テ此點ヲ明ニシテ置キタイノデアリマス(拍手)

社ノ資本ノ増加、合併、目的ノ變更、社債ノ募集、利益ノ處分、其他千差萬別、國民ノ生活ニ極メテ重大ナル關係ヲ持ッテ居ル所ノ物資業務、之ヲ擧ゲテ勅令ニ讓ッテアル、即チ非常ナ廣範圍ニ互ッテ法律ニ代ルベキ勅令ヲ制定セントスルノデゴザイマシテ、是ガ所謂憲法上ニ於ケル委任立法デアルノデアリマス、非常ナ廣範圍ニ互ッテ委任立法ヲ規定セントスルノデアル、茲ニ本案ニ對スル問題ガ伏在シテ居ルノデアリマス、元來我が憲法ノ正面解釋ト致シマシテ、委任立法ハ許サルベキモノデアルカ、許サルベキモノデナイカト云フコトニ付キマシテハ議論ガアリマス、立法事項ト大權事項ヲ截然トシテ區別ラシテ、立法事項ハ議會ノ協賛ヲ要スル、大權事項ハ議會ノ干渉ヲ許サナイ、此基礎ノ上ニ立テラレテ居マス所ノ、我が憲法ノ正面解釋ト致シマシテハ、委任立法ハ憲法違反デアルト云フ議論ハ相當ノ根據ガアルノデアリマス、憲法ノ大家デアリマシタ所ノ故德積八東博士ノ如キハ、終始一貫シテ死ニ至ルマデ委任立法ノ違憲デアルコトヲ論ゼラレテ居ル、切々トシテ委任立法許スベカラズト云フコトヲ議論セラレテ居ル、併ナガラ我國ノ憲法の實例ハ、委任立法亦憲法違反ニ非ラズトシテ居リマスカラ、私ハ此點ニ付テハ議論ハ致サナイ、併ナガラ委任立法ハ何ト申シタ所ガ一種ノ變則立法デアリマス、議會ノ協賛ヲ經ザレバ制定スルコトノ出來ナイ立法事項ヲ、議會ノ協賛ヲ經ズシテ政府ガ勅令ヲ以テ自由ニ制定スル、即チ議會ノ權能ヲ侵スモノデアリマスルカラ、事柄ノ性質上萬已ムラ得ナイ場合ノ外ハ、斷ジテ之ヲ用フベキモノデハナイノデアル(拍手)然ルニ政府ガ斯ノ如キ立法ノ方法ヲ採ラレタル理由ハ何處ニアルカ、只今廣田國務大臣ノ御説明ヲ承リ、又此處ニアリマスル所ノ「國家總動員法制定ノ必要ナル理由」ト云フ、政府カラ出サ

レマシタ所ノ此文書ヲ見テ、ドレヲ聽キ、ドレヲ讀ミマシテモ、斯ノ如キ立法方法ヲ採ラネバナラス所ノ、眞ノ理由ヲ發見スルコトガ出來ナイ(拍手)斯ノ如キ立法ノ形式ヲ採ルニ至リマシタ根本ノ理由ト稱セラレルモノハ唯一ツアル、廣田國務大臣ハ此點ニハ言及サレナカッタノデアリマスケレドモ、此理由書ノ中ニ現レテ居ル、何デアルカト云フト、國家總動員ノ目的ヲ達スルガ爲ニハ、豫メ綜括的ニ單一法ヲ制定シテ置ク必要ガアル、時々ノ必要ニ應ジテ個々別々ニ法律ヲ作ルト云フコトデハ、統制ノ實ヲ擧ゲルコトガ出來ナイノミナラス、國家ノ危急ニ應ズルコトガ出來ナイニ依ッテ、豫メ單一法ヲ制定スル必要ガアル、是ガ今回國家總動員法ヲ制定セントスルニ至ッタル理由デアアルノデアリマス、總動員ノ目的ヲ達スルガ爲ニ、單一法ヲ制定スル必要アリト言ハレルナラバ、ソレモ宜シイ、併ナガラ單一法ヲ制定スル必要アリト云フ其理由ハ、直チニ以テ立法事項ヲ勅令ニ委ネナケレバナラスト云フ其理由ニハナラナイノデアアル(拍手)ノミナラス單一法ヲ制定スルナラバ、益々此法律ノ明文ニ於テ立法事項ヲ明記シナクテハナラナイノデアリマス、最前申シマシタヤウニ、此法律ハ此儘デハ一條ト雖モ實行ノ出來ルモノハナイ、此法律ハ大體ニ於テ總動員法ノ總論ヲ規定シタニ過ギナイノデアリマシテ、一切ノ各論ハ之ヲ勅令ニ讓ッテ居ルノデアリマス(拍手)故ニ此法律ヲ實行セントスルニ當リテハ、幾多無數ノ勅令ヲ制定シナケレバナラス、現ニ此法條ニ現ハレテ居リマスル所ノ「勅令ノ定ムル所ニ依リ」云々ノ條文ヲ見デモ、少クトモ三十有餘ノ勅令ガナケレバ、此法律ハ一條タリト雖モ實行スルコトガ出來ナイ(拍手)即チ勅令ノ林立、勅令ガ林ノ如ク生レテ來ル、何處ニ單一法ノ質ガアルカ、是ハ單一法デハナクシテ、極メテ無統制ナル所

アルトスルナラバ、本案ハ根柢カラ崩壊セネバナラスノデアル、政府ハ如何ナル見解ノ下ニ於テ此法案ヲ起草セラレタノデアルカ、先以テ此點ヲ明ニシテ置キタイノデアリマス(拍手)

次ニ憲法第三十一條ノ關係ハ姑ク別問題トシテ、他ノ角度カラ此法案ヲ觀レバ、何人ニモ一見シテ分リマスルヤウニ、憲法上ノ法律事項ガ悉ク勅令ニ讓ッテアル、先程申シマシタヤウニ、法律ニ依ルニアラザレバ制限シ、剝奪スルコトノ出來ナイ日本臣民ノ權利自由ヲ、擧ゲテ政府ノ獨斷專行ニ委ネルト云フノガ、此法案全部ヲ通ズル所ノ目的デアアルノデアル、若シ疑ハル、ナラバ此法案ノ内容ヲ一瞥シテ見ル、先ヅ第二條ニハ總動員物資ト云フモノガ掲ゲテアル、是ハ一號ヨリ八號マデ掲ゲテゴザイマスルガ、是ハ全ク例示的ナ規定デゴザイマシテ、其外如何ナルモノヲ總動員物資トスルカト云フコトハ、全然勅令ニ讓ッテアル、故ニ日本全國ノ物資即チ國民ノ財産デアリマス、動産、不動産デアリマス、此國民ノ財産ヲ全部總動員物資トスルコトモ、自由ニ政府ガ決メルコトガ出來ルノデアアル、次ニ總動員業務ト云フモノガ掲ゲテアリマシテ、是モ一號ヨリ八號マデ例示的ノ規定ガゴザイマスルケレドモ、此外如何ナルモノヲ總動員業務トスルカハ、全然勅令ヲ以テ指定スルコトガ出來ルノデアリマスカラ、是亦政府ノ自由ニ日本全國ノ有ル業務ヲ、擧ゲテ以テ總動員業務ト指定スルコトガ出來ルノデアアル、而シテ此物資ヲ使用、收用スルコトヲ全ク勅令ニ讓ッテアル、又是等ノ業務ニ對シテ日本國民ヲ強制徴發スル、其他此業務ヲ擧ゲテ直接間接ニ支配スルノハ、是亦勅令ニ依ッテ自由ニ處分スルコトガ出來ルノデアル、其外輸出入ノ統制カラ輸入税及ビ輸出税ヲ新ニ課スル、或ハ之ヲ増加減免スルコトモ全ク勅令ニ讓ッテアル、銀行會

社ノ資本ノ増加、合併、目的ノ變更、社債ノ募集、利益ノ處分、其他千差萬別、國民ノ生活ニ極メテ重大ナル關係ヲ持ッテ居ル所ノ物資業務、之ヲ擧ゲテ勅令ニ讓ッテアル、即チ非常ナ廣範圍ニ互ッテ法律ニ代ルベキ勅令ヲ制定セントスルノデゴザイマシテ、是ガ所謂憲法上ニ於ケル委任立法デアルノデアリマス、非常ナ廣範圍ニ互ッテ委任立法ヲ規定セントスルノデアル、茲ニ本案ニ對スル問題ガ伏在シテ居ルノデアリマス、元來我が憲法ノ正面解釋ト致シマシテ、委任立法ハ許サルベキモノデアルカ、許サルベキモノデナイカト云フコトニ付キマシテハ議論ガアリマス、立法事項ト大權事項ヲ截然トシテ區別ラシテ、立法事項ハ議會ノ協賛ヲ要スル、大權事項ハ議會ノ干渉ヲ許サナイ、此基礎ノ上ニ立テラレテ居マス所ノ、我が憲法ノ正面解釋ト致シマシテハ、委任立法ハ憲法違反デアルト云フ議論ハ相當ノ根據ガアルノデアリマス、憲法ノ大家デアリマシタ所ノ故德積八東博士ノ如キハ、終始一貫シテ死ニ至ルマデ委任立法ノ違憲デアルコトヲ論ゼラレテ居ル、切々トシテ委任立法許スベカラズト云フコトヲ議論セラレテ居ル、併ナガラ我國ノ憲法の實例ハ、委任立法亦憲法違反ニ非ラズトシテ居リマスカラ、私ハ此點ニ付テハ議論ハ致サナイ、併ナガラ委任立法ハ何ト申シタ所ガ一種ノ變則立法デアリマス、議會ノ協賛ヲ經ザレバ制定スルコトノ出來ナイ立法事項ヲ、議會ノ協賛ヲ經ズシテ政府ガ勅令ヲ以テ自由ニ制定スル、即チ議會ノ權能ヲ侵スモノデアリマスルカラ、事柄ノ性質上萬已ムラ得ナイ場合ノ外ハ、斷ジテ之ヲ用フベキモノデハナイノデアル(拍手)然ルニ政府ガ斯ノ如キ立法ノ方法ヲ採ラレタル理由ハ何處ニアルカ、只今廣田國務大臣ノ御説明ヲ承リ、又此處ニアリマスル所ノ「國家總動員法制定ノ必要ナル理由」ト云フ、政府カラ出サ

レマシタ所ノ此文書ヲ見テ、ドレヲ聽キ、ドレヲ讀ミマシテモ、斯ノ如キ立法方法ヲ採ラネバナラス所ノ、眞ノ理由ヲ發見スルコトガ出來ナイ(拍手)斯ノ如キ立法ノ形式ヲ採ルニ至リマシタ根本ノ理由ト稱セラレルモノハ唯一ツアル、廣田國務大臣ハ此點ニハ言及サレナカッタノデアリマスケレドモ、此理由書ノ中ニ現レテ居ル、何デアルカト云フト、國家總動員ノ目的ヲ達スルガ爲ニハ、豫メ綜括的ニ單一法ヲ制定シテ置ク必要ガアル、時々ノ必要ニ應ジテ個々別々ニ法律ヲ作ルト云フコトデハ、統制ノ實ヲ擧ゲルコトガ出來ナイノミナラス、國家ノ危急ニ應ズルコトガ出來ナイニ依ッテ、豫メ單一法ヲ制定スル必要ガアル、是ガ今回國家總動員法ヲ制定セントスルニ至ッタル理由デアアルノデアリマス、總動員ノ目的ヲ達スルガ爲ニ、單一法ヲ制定スル必要アリト言ハレルナラバ、ソレモ宜シイ、併ナガラ單一法ヲ制定スル必要アリト云フ其理由ハ、直チニ以テ立法事項ヲ勅令ニ委ネナケレバナラスト云フ其理由ニハナラナイノデアアル(拍手)ノミナラス單一法ヲ制定スルナラバ、益々此法律ノ明文ニ於テ立法事項ヲ明記シナクテハナラナイノデアリマス、最前申シマシタヤウニ、此法律ハ此儘デハ一條ト雖モ實行ノ出來ルモノハナイ、此法律ハ大體ニ於テ總動員法ノ總論ヲ規定シタニ過ギナイノデアリマシテ、一切ノ各論ハ之ヲ勅令ニ讓ッテ居ルノデアリマス(拍手)故ニ此法律ヲ實行セントスルニ當リテハ、幾多無數ノ勅令ヲ制定シナケレバナラス、現ニ此法條ニ現ハレテ居リマスル所ノ「勅令ノ定ムル所ニ依リ」云々ノ條文ヲ見デモ、少クトモ三十有餘ノ勅令ガナケレバ、此法律ハ一條タリト雖モ實行スルコトガ出來ナイ(拍手)即チ勅令ノ林立、勅令ガ林ノ如ク生レテ來ル、何處ニ單一法ノ質ガアルカ、是ハ單一法デハナクシテ、極メテ無統制ナル所

ノ複雑法トナラザルヲ得ナイノデアル（拍手）ソレ故ニ政府ガ單一法制定ノ必要アリト稱シテ、此法案ヲ作成セラレルコトハ、全ク是ハ自家撞著デアッデ、斯ノ如キ胡麻化シガ通ル譯ハナイト私ハ思フノデアル（拍手）或ハ政府ハ斯ウ云フ辯解ヲセラルカ分ラナイ、御説ハ一應尤デアルガ、併シ總動員法ノ内容ニ於テハ、先程申シマシタヤウニ國民ノ權利自由、即チ國民ノ生存權ノ有ル方面ニ互ツテ、規定シナクテハナラヌノデアルカラ、之ヲ一々法律ニ記載シテ議會ノ協賛ヲ求ムルコトハ適當デナイ、斯ウ云フ考ヲ持ツテ居ラル、ナラバ、ソレハ非常ナ誤デアリマス、國民ノ生存權ニ重大ナル關係ガアレバアル程、國民ノ代表タル議會ノ協賛ヲ要スルノデアル（拍手）同時ニ議會モ亦能ク其内容ヲ檢討シテ、國家ノ現狀ニ照シテ賛成スルモノハ賛成スル、反對スルモノハ反對スル、能ク其内容ヲ檢討シテ賛否ヲ決スルニ於テ、少シモ躊躇スルモノデハナイ、政府ニ於テモ亦此點ハ十分心得テ居ラレバナラヌノデアリマス、又政府ハ斯ウ云フ辯解ヲシテ居ラレル、一タビ法律ニ制定スルト、之ヲ改廢スルニ當ツテ議會ノ協賛ヲ求メネバナラス、議會ハ年中開カレテ居ルモノデハナイ、臨時議會ニ諮ラウトシテモ、是亦間ニ合ハナイコトガアル、ソレ故ニ勅令ニ議ツテ貫ヒタイ、是ガ實ハ政府ノ肚ノ中ニ潛メテ居ル所ノ眞ノ理由デアル、現ニ此文書ノ上ニ於テモ、サウ云フ事ガ現レテ居ルノデアリマス、若シ政府ノ考ガ茲ニアルナラバ、是亦非常ナ誤デハナイカ、臨時議會ヲ開ク暇ガナイナラバ、之ニ處スベキ途ハ澤山ニアルノデアリマス、何デアルカ、即チ緊急勅令デアルノデアリマス、現ニ政府ハ最後ニ於テ、法案ノ末尾ニ一條ヲ附加ヘテ「本法施行ニ關スル重要事項ニ付政府ノ諮問ニ應ズル爲メ國家總動員審議會ヲ置ク」ト云フコトガ書イテ

アル、政府ノ考デハ、其勅令案ヲ審議セシムルガ爲ニ、別ニ審議會ヲ設ケルト云フ趣旨デアルニ相違ナイ、審議會ニ掛ケルコトガ出來ルナラバ、ナゼニ議會ニ掛ケルコトガ出來ナイカ（拍手）ナゼニ樞密院ニ諮ルコトハ出來ルガ、憲法上ノ機關タル議會ニ諮ルコトハ出來ナイ、樞密院ニ諮ルコトハ出來ナイ、是ハ全ク政府ノ我儘ト云フモノデアル（拍手）斯ウ云フ口實、斯ウ云フ通辭ハ斷ジテ許スベカラザルモノデアリマス（拍手）要スルニ斯ノ如キ次第デゴザイマシテ、繰返シテ申シマスルヤウニ、憲法ニ保障セラレテ居リマスル所ノ臣民ノ權利自由ヲ、法律ニ依リニアラザレバ制限スルコトノ出來ナイモノヲバ、憲法上ノ機關タル議會ニ諮ラナイ、樞密院ニ諮ラナイ、政府ノ獨斷專行ニ依ツテ決シタイカラシテ、之ニ要スル委任狀ヲ貰ヒタイ、白紙ノ委任狀ニ盲判ヲ捺シテ貰ヒタイ、是ヨリ外ニ此法案全文ヲ通ジテ何等ノ意味ハ無いノデアル（拍手）更ニ進ンデ他ノ方面ニ付テ政府ノ意見ヲ伺ツテ置キタイコトガゴザイマス、先程申シマシタヤウニ、國防ノ目的ヲ達成スルガ爲ニ、動員法ノ制定ガ必要デアルト言ヘル、ナラバ、吾々ハ決シテ之ニ異論ヲ唱ヘル者デハナイ、併ナガラ此動員法ノ内容ヲ一瞥致シマスルト、動員法ノ名ニ依ツテ斯ノ如キ廣汎ナル規定ヲ設ケルノ必要ガアルカナイカ、是ガ一ツノ疑問デアアルノデアリマス、動員法ノ性質ニ照シテ之ヲ考ヘテ、斯ノ如キ廣汎ナル事柄ヲ規定スル必要ガアルカ、申ス迄モナク國防ニハ廣義ノ意味ト狹義ノ意味ガアリマス、之ヲ廣義ノ意味カラ見マスルナラバ、國內ノ政治、經濟、産業、貿易、思想、教育、其他有ユル政治上及ビ社會上ノ現象ハ、直接間接ニ國防ニ關係ヲ有シナイモノハ無いデアリマセウ、併ナガラ是等ノ事柄ヲバ、悉ク總動員法ノ中ニ吸收ス

ベキモノデナイト云フコトハ明カデアル、然ラバ此中ヨリ何ヲ標準トシテ是ダケノ事項ヲ抽キ出シタノデアアルカ、最前申シマシタヤウニ、輸出入ノ統制カラシテ新ニ輸入稅ヲ課スル、輸出稅ヲ課スル、之ヲ増加減免スルコトマデ動員法ノ中ニ掲グベキモノデアアルカ否ヤト云フコトガ、吾々ノ一ツノ疑問デアアルノデアリマス、而モ何レモ國民ノ生存權ニ極メテ重大ナル關係ヲ持ツテ居リマスル其事柄ヲ、法律ノ力ヲ以テ國民ヲ金縛リニスル、其上之ニ臨ムニ三年ノ懲役、一萬圓ノ罰金ヲ以テスル、斯ノ如キ苛酷ナル法律ヲ作ルニアラザレバ、今日國防ノ目的ヲ達成スルコトガ出來ナイノデアアルカ、否、斯ノ如キ立法ヲ爲スコトガ眞ニ國防ノ目的ヲ達スル所以デアアルカ、是ガ吾々ノ胸ニ浮ブ所ノ一ツノ疑問デアアルノデアリマス、政府當局ハ眼孔ヲ大ニシテ、此時局ニ現レタル國民ノ精神力ニ付テハ、十分ニ注意ヲシテ居ラル、ニ相違ナイ、今ヤ外ニアツテハ百万ノ皇軍ガ生死ヲ忘レテ國家ノ爲ニ戰ツテ居ル、ノミナラズ既ニ數萬ノ將兵ハ戰場ノ露ト消エテ居ルノデアアル、是ハ法律ノ力ニ依ルモノデアリマセウカ、決シテサウデハアリマスマイ、又内ニ於テハ全國到處ニ愛國運動ガ起ツテ居ル、銃後ノ後援運動ガ起ツテ居ル、是ハ法律ノ力ニ依ルモノデアリマスルカ、決シテサウデハアリマスマイ、日本國民ハ國家有事ノ秋ニ當ツテハ、各、其分ニ應ジテ有ユル犧牲ヲ覺悟シテ居ル、是ハ法律ノ力ニ依ルモノデアアルカ、決シテサウデハアリマスマイ、百ノ法律ヲ作り、千ノ立法ヲ爲スト雖モ、國民ノ精神ガ茲ニ至ラナケレバ、斷ジテ此事實ヲ見ルコトハ出來ナイノデアリマス（拍手）然ルニ此國民性ニ向ツテ深キ考慮ヲ拂ハナイ、此國民ニ臨ムニ當ツテ法律萬能ヲ夢ミテ居ル、而モ我國トハ全ク國民性ヲ異ニスル所ノ歐洲二三ノ國々ニ於テ現レテ居ル、若クハ現レントシテ居

ルト稱スル所ノ此法制ニ氣ヲ奪ハレテ、而モ斯ノ如キ重刑ヲ以テ國民ニ臨ンデ、國民ノ權利自由ヲ拘束シテ、國民ヲ彈壓シテ、國民ヲ信用シナイノミナラズ、却テ之ヲ疑フガ如キ立法ヲ爲スコトガ、果シテ國民ノ精神ヲ提ヘル所以デアアルカ（ヒヤ／＼）「拍手」果シテ國民ノ愛國心ヲ鼓舞スル所以デアアルカ、果シテ國家總動員ノ實ヲ擧ゲテ眞ニ國防ノ目的ヲ達スル所以デアアルカ、政府ニ於テ御考ガアリマスルナラバ、御意見ヲ承ツテ置キタイノデアル（拍手）尙ホ本案ニ付キマシテハ、形式上ニ於テ亦實質上ニ於テ、幾多ノ疑ヲ懷イテ居ルノデアリマスルケレドモ、サウ云フコトハ他ノ機會ニ讓ツテ置キマスルガ、更ニ私ハ政府ニ向ツテ一言ヲ致シテ置キタイコトガアル、今日ハ總理大臣ハ御病氣ノ爲ニ御缺席ニナツテ居リマス、甚ダ遺憾デアリマスルケレドモ、御病氣ナラバ仕方ガナイ、切ニ御靜養ヲ祈ル者デアリマス、他ノ國務大臣ニ於テ眞劍ニ御聽取ヲ願ヒタイ、私ノ見ル所ヲ忌憚ナク申シマスルナラバ、政府ガ斯ノ如キ立法ノ途ヲ執ラレタル、其心事ハ何レニアルカト云フコトヲ疑ツテ居リマス、若シ政府ニ於テ眞ニ憲法政治ノ運用ニ忠實デアリマスルナラバ、斯ノ如キ立法ノ形式ハ執ラレナイ筈デアアル（拍手）固ヨリ政府ノ立場カラ見マスルナラバ、是ガ便利デアアルニ相違ナイ、議會ニ諮ラズ、樞密院ニ諮ラズ、政府ノ獨斷專行ニ委スル、之ヲ議會ニ諮リ、之ヲ樞密院ニ諮リマシタナラバ、其利害得失ニ付テ色々ナ議論ガ起ツテ來ル、面倒デアアルカラシテ、議會ニ諮ラズ、樞密院ニモ諮ラズシテ、何處マデモ政府ガ獨斷專行ヲヤル、政府ニ取ツテハ是ハ便利デアアルニ相違ナイ、併ナガラ政府ニ取ツテ便利デアアルコトハ、必シモ國家ニ取ツテ便利デアハナイ（拍手）政府ニ取ツテ便利デアアルコトハ、必シモ國民ニ取ツテ便利デアハナイ（拍手）茲ニ憲法ノ條規ガ現

レ、憲法ノ運用ガ來ルノデアリマスルカ
ラ、政府モ是等ノ點ニ付テハ十分ニ注意ヲ
加ヘテ、苟且ニモ憲法ノ條規ヲ無視スル、
苟且ニモ議會ノ權能ヲ輕視スルト云フガ如
キ、斯ウ云フ考ハ毛頭起サレテハナラナイ
ノデアル（拍手）私ノ見ル所ニ依リマスル
ト、此立法ハ嘗テ獨逸ノ「ナチス」政府ガ
採ツタ所ノ立法ト稍々相似シテ居ル所ガア
ル、殆ド兄弟分デハナイカト思ヘル、ノデ
アリマス（拍手）御承知ノ通りニ、千九百三
十三年ノ三月ノ二十四日「ナチス」政府ハ議
會ノ協賛ヲ經テ、國家及ビ國民ノ危險ヲ除
去スル法律、世ニ所謂授權法ナルモノヲバ
制定シタノデアリマス、此法律ヲ見マスル
ト、法律ハ議會ニ於テ作ルコトモ出來レ
バ、又政府自身ニ於テモ作ルコトガ出來
ル、即チ政府ニ向テ政府單獨ニ法律ヲ制
定スル權力ヲ與ヘテ居ル、「ナチス」政府ハ
此授權法ヲ握ツテ以來、勝手自由ニ數多ノ法
律ヲ製造シタ結果、事實ニ於テ獨逸ノ憲法
ハ變更セラレテ居ルノデアリマス、ソレト
是トハ全ク趣ハ違ヒマスルケレドモ、最前
申シマシタヤウニ、憲法上ニ於ケル極メテ
大切ナル要項、日本臣民ノ權利自由ヲバ、
法律ニ依ラズシテ政府ガ自由ニ左右スルコ
トガ出來ルト云フコトハ、憲法ノ一部變更、
憲法ノ中止ト何等選ブ所ハナイ（拍手）若シ
斯ウ云フ勢ヲ助長シテ行キマシタナラバ、
末ハドウナルカ、議會ノ權能ハ一步々ト
政府ニ移ツテ、憲法政治ノ將來推シテ知ルベ
キノミデアリマス（拍手）而モ廣キ世ノ中ニ
ハサウ云フコトヲバ心竊ニ望ンデ居ル者ガ
アルカモ分ラヌ（拍手）御承知ノ通りニ、近
頃我國ノ一部ニ於キマシテハ、一種ノ反動
思想ガ現レテ居ル、此反動思想ノ中ニハ、
聽クベキモノモアリマスルケレドモ、又何
等有力ナル根據ヲ持ツテ居ラナイ、思想ノ統
一モ何モノナイ、剩ヘ我國ノ國體、我國ノ歷
史、我國ノ政治組織等ニ付テ深イ研究モ爲

サズシテ、動モスレバ歐洲二三ノ國々ニ於
ケル獨裁政治家ノ糟粕ヲ嘗メテ、專制ノ昔
ニ還ヘルコトヲ以テ、國家改造、政治革新
ノ要諦ナリト心得テ居ル者ガアル（拍手）誤
レルモ甚シキモノデアリマス、私ハ今日ノ
政府部内ニ於テ、斯ウ云フ頭ノ持主ガアル
ト云フコトハ想像シテ居ラナイ、又此法案
ガ斯ル思想ノ流レデアルト云フコトモ想像
シテ居ラナイ、併ナガラ此法案ノ内容ニ付
テハ、結ンデ解ケザル所ノ一種ノ疑ガアリ
マスルカラシテ、敢テ此一言ヲバ呈スル次
第デアリマス

念ノ爲ニ尙ホ附加ヘテ置キマスルガ、吾
吾ハ決シテ此法案ヲ提ゲテ政府ト論争ヲ試
ミントスル者デハナイ、政府ハ國民ニ向ッテ
協力一致ヲ要望シテ居ル、吾々固ヨリ異存
ハナイ、吾々固ヨリ贊成デアリマス、贊成
デアルト同時ニ、吾々モ亦政府ニ向ッテ協力
一致ヲ要望スル權利ガアル（拍手）又政府ハ
國家ニ向ッテ摩擦相剋ヲ戒メテ居ル、吾々固
ヨリ異存ハナイ、吾々固ヨリ贊成デアリマ
スガ、吾々モ亦政府ニ向ッテ徒ニ國民ト政府
トノ間ニ於テ、摩擦相剋ヲ惹起スベキ一切ノ
行動ヲ爲スベカラズ（拍手）斯様ニ私ハ政府
ニ向ッテ警告スル、近來動モスレバ時局問題
及ビ國防問題等ニ付キマシテハ、能ク其内容
ヲ檢討セズシテ、唯盲目的ニ、無條件ニ政
府ニ服従スルコトヲ以テ、愛國者ナリト心
得テ居ル者ガアル（拍手）世ノ中ノ俗物ハ卒
ザ知ラズ、吾々苟モ憲法ノ委託ニ依ッテ國政
ノ根本ニ參畫スル權能ヲ與ヘラレテ居ル者
ハ、斯ノ如キ考ハ少クトモ吾々ノ間ニ於テ
ハ通用シナイノデアリマス（拍手）ソレ故ニ
政府ハ現在及ビ將來政治ヲ行フニ當ッテ、決
シテ無理ヲシテハイカナイ、苟且ニモ國民
ヲ無視シ、國民ノ代表者タル議會ヲ輕視ス
ルト云フガ如キ、斯様ナ考ハ一切政府ノ頭
カラ取除カナケレバナラス（ヒヤ／＼）斯
ノ如キ考ヲ一般國民ニ與ヘルト云フコト

ハ、決シテ此非常時局ニ處スル所以デハナ
イノデアリマス、此見地ニ立ッテ私ハ此法案
ノ立法方法ニ付キマシテハ、多大ニ遺憾ノ
意ヲ表セザルヲ得ナイ

此處ニ帝國憲法ノ前文ガアリマスルガ、
此前文ニ於テドウ云フコトガ現レテ居ル
カ、朕ガ在廷ノ大臣ハ朕ガ爲ニ此憲法ヲ施
行スルノ責ニ任ズル、斯ノ如キ立法ノ途ヲ
執ルコトガ、憲法施行ノ責任ヲ全ウスル所
以デアリマスカ、次ニ「現在及將來ノ臣民
ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フ
ヘシ」吾々ハ如何ナル場合ニ當ッテモ憲法ニ
對スル從順ノ義務ヲ忘レナイ、政府ハ宜シ
ク之ヲ記憶セラレネバナラス、或ハ先日ノ
憲法發布五十年記念ノ式典ニ當ッテ、國民ニ
賜ツタ勅語ノ中ニドウ云フコトガ現レテ居
ルカ、朕ガ忠良ナル臣民宜シク憲章ヲ奉遵
シテ愆ルナカレ、之ニ對應シテ近衛總理大
臣ガ國民ニ訓諭セラレタル所ノ其一節ニ於
テモ「立憲治下ノ國民タル者宜シク立憲ノ
本義ニ稽ヘ憲章奉遵ノ途ヲ愆ルナカレ」斯
ノ如キ立法ノ途ヲ執ルコトハ、此聖旨ニ應
ヘ奉ル所以デアアルカ、此總理大臣ノ訓示ニ
副フ所以デアアルカ、政府ハ退イテ此法案ノ
形式ニ付テハ、更ニ一考セラルベキモノデ
アルト思フガドウカ

私ノ質問ハ大體以上ノ通りデアリマシテ、
他ノ詳細ナ點ハ他日ノ機會ニ讓ルコトト致
シマス、以上ノ質問ニ對シテドウカ眞劍ニ、
眞面目ニ御答辯アランコトヲ切ニ希望致シ
マス（拍手）

○議長（小山松壽君） 瀧金書院總裁……
（總理大臣ハドウシタ）外務大臣ヲ出
セ（其他發言スル者多シ）

○議長（小山松壽君） 廣田國務大臣
（國務大臣廣田弘毅君登壇）

○國務大臣（廣田弘毅君） 只今齋藤君ヨリ
非常ニ重要ナル御質問ガアッタノデアリマ
ス、之ニ對シマシテ法制局長官ヨリ御答致

サセマス
（總理大臣ニ對スル質問ヲドウスルノ
ダ）其他發言スル者多ク議場騒然

○服部崎市君 暫時休憩セラレンコトヲ望
ミマス（拍手）

○議長（小山松壽君） 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ
（異議ナシト呼フ者アリ）

○議長（小山松壽君） 御異議ナシト認メマ
ス、暫時休憩致シマス
午後二時十三分休憩

午後五時一分開議
○議長（小山松壽君） 休憩前ニ引續キ會議
ヲ開キマス——鹽野國務大臣
（國務大臣鹽野季彦君登壇）

○國務大臣（鹽野季彦君） 齋藤君ノ御質問
ニ御答ヲ致シマス、齋藤君ノ御質問ノ要旨
ハ、本法案ト憲法トノ關係ニアルノデアリ
マス、殊ニ憲法第三十一條及ビ委任命令ノ
點ニ付テ、種々有益ナル御説ヲ拜聽スルコ
トガ出來マシタ、政府ニ於キマシテハ、勿
論本法案立案ノ際ニ當リマシテ、憲法問
題ニ付テ十分ナル研究ヲ遂ゲタノデアリマ
ス、政府ハ本法案ガ憲法ノ規定ニ決シテ違
反シテ居ナイモノト信ズルモノデアリマ
ス、政府ハ憲法ノ章條ヲ尊重シ、先例ニ
從ッテ本法案ヲ提案セルモノデアリマシテ、
決シテ議會ヲ輕視スルガ如キ意圖ヲ有スル
モノデハアリマセヌ、彼ノ立法事項ヲ
命令ノ規定ニ委任スルコト、即チ委任命令
ノ問題ニ付キマシテハ、既ニ幾多ノ先例ガ
ゴザイマスノデ、曩ニ軍需工業動員法アリ、
又昨年ハ事變ニ關聯スル臨時立法、其他ノ
先例ガ頗ル多イノデアリマス、此委任命令ハ
御承知ノ通り、法律ノ條文ノ上ニ於キマシ
テ、臣民ノ自由、財産等ニ對シテ制限ヲ加
ヘマスル場合ニ、命令ニ委任シマシテ、一層
其制限ヲ小ナラシムル爲ニ設ケラレテ居ル

モノデアリマス、決シテ命令ニ對シテ廣汎ナル委任ヲ與ヘル趣旨ノモノデハナイノデアリマス、本法案ニ於キマシテモ、最小限度ノ……

〔發言スル者アリ〕

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○國務大臣(鹽野季彦君) 範圍ニ於テ命令ニ規定セントスルモノデアリマス、尙ホ又命令ニ依ル必要アリマスルコトハ、戰爭ノ態様、規模、或ハ推移ノ狀況ニ依リマシテ、今カラ之ヲ豫斷スルコトガ出來ナイ事情モアルノデアリマス、斯様ナ譯テ命令ニ委任致シマスルコトハ、業ニ已ニ幾多ノ例ガアルコトデアリマスルカラ、決シテ憲法ノ章條ニ違反スルモノトハ固ク信ジナイノデゴザイマス、戰時其他ノ之ニ準ズベキ事變ニ際シマシテハ、國家總動員ノ必要ナルコトハ論ヲ俟タナイノデアリマス、此國家總動員ヲ遂行シテ實績ヲ擧ゲテ参リマスノハ、洵ニ國民ノ精神總動員ヲ必要トスルノデアリマス、單ニ法律ヲ規定シテ置クト云フバカリデハナク、是ガ實施ハ國民ノ總體ガ、其固有ノ精神ニ依ッテ遂行スル所ニアルコトハ、洵ニ齋藤君ノ御説ノ通りデアリマス、併ナガラ今日ノ複雑ナル社會組織、經濟組織ノ下ニ於キマシテハ、一應平素ニ於テ其最後ノ保障トシテ、此程度ノ立法ヲシテ置クコトガ必要ト考ヘルノデアリマス、彼ノ憲法第三十一條ハ、非常特別ノ際ニ大權ノ發動ヲ見ル規定デアリマシテ、御質問ノ際ニモ、其内容トナルモノハ法律デモ規定ガ出來、又非常ノ場合勅令ニ於テモ出來ルコトデゴザイマスガ……

〔發言スル者アリ〕

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○國務大臣(鹽野季彦君) 併ナガラ其非常ノ場合ニ勅令ガ出マスルコト、國民ノ之ニ對スル理解ガ乏シク、其實績ヲ擧グルコトガ容易デナイカトモ考ヘラレルノデアリ

マス、之ヲ今日ヨリ準備致シマシテ、國民ヲシテ能ク理解サセ、國民ノ協力ヲ俟ッテ、初メテ完全ナル國家總動員ガ出來ルモノデアラウト考ヘマスルカラ、今日ニ於テ此法案ヲ立案致シテ次第デアリマス、御承知ノヤウニ現今ノ國際情勢ニ於キマシテハ、如何様ナル狀態ニ推移シテ参リマスルカ、甚ダ豫測ヲ許サヌモノガアルノデアリマス、隨テ其準備ノ爲ニ、今ノ内カラ能ク國民ニ理解サセ、サウシテ其實效ヲ擧ゲタイノガ茲ニ本案ヲ提出スル譯デアリマシテ、其平素ヨリノ計畫準備ガアツテ、初メテ圓滑ニ遂行スルコトガ出來ル、茲ニ重點ヲ置キマシテ本案ヲ提出シテ次第デアリマス(拍手)

〔齋藤隆夫君登壇〕

○齋藤隆夫君 政府ヲ代表シテ鹽野國務大臣ガ只今御答辯ニナリマシタ、私ハ斯ノ如キ大法案ヲ政府ガ提出スルニ當ッテ、國務大臣ノ間ニ於テ法案ニ對スル十分ノ理解ガ出來テ居ラナイコトヲ、甚ダ遺憾ニ思フノデアリマス(拍手)

私ノ質問ハ第一ハ憲法第三十一條ト此法案トノ關係デゴザイマスルガ、是ハ全ク法理上ノ問題ニ屬スルノデアリマス、戰時及ビ事變ニ當リマシテハ、大權ノ發動ニ依ッテ憲法第二章ニ規定セラレテ居ル所ノ、臣民ノ權利自由ヲ拘束スルコトガ出來ルノデアアル、是ハ別ニ法律ノ委任ニ依ラスシテ依ラスシテデハナイ、法律ガ委任スベカラザルモノデアリマス(拍手)是ガ即チ大權ノ獨立ナノデアリマス、此法律ノ根據ナクシテ出來得ル所ノ此大權事項ヲバ、特ニ此法律ニ依ッテ議會ノ協贊ヲ經テ、勅令ニ委任セラレルト云フ其事ガ、憲法第三十一條ニ背イテ居ルノデハナイカト云フ、此點デアアルノデアリマス(拍手)之ニ付テ政府ノ見解ハ定マツテ居ルノデアアルカ、ナイカハ知りマセヌケレドモ、此壇上ニ於ケル鹽野國務大臣ノ御答辯ハ、此要點ニ觸レテ居ラナカッタ

コトヲ甚ダ遺憾ニ思ヒマス

第二ニ委任立法ノ實例ガアルト云フコトハ、政府ノ説明ヲ聽ク迄モナク能ク承知シテ居リマス、是マデ屢アル、併ナガラ憲法ニ保障セラレテ居ル所ノ國民ノ權利自由及ビ財產、之ヲ無限ニ拘束シ、無限ニ剝奪スル、斯ノ如キ廣汎ナル委任立法ヲ出シタ例ハ、憲法始マツテ以來無イ(拍手)而モ事柄ノ性質上、委任立法ニ依ルニアラザレバ、此目的ヲ達スルコトガ出來ナイト云フ理由ガアレバ吾々ハ認メル、其理由ガ何處ニアルカ、法律ニ規定スレバ宜イデハナイカ、法律ニ規定スベキ事項ヲ勅令ニ讓ルニ付テハ、法律ニ規定スルコトガ出來ナイト云フ其理由ガナクテハナラナイ、其理由ガ何處ニアル、現ニ審議會ヲ設ケテ數多ノ勅令ヲ審議會ノ議ニ付スルト云フノデハナイカ、最前申シタヤウニ審議會ニ付スル所ノ餘裕ガアルナラバ、何故議會ニ諮ラナイカ、審議會ニ付スル所ノ餘裕ガアルナラバ、何故憲法ノ審議機關タル所ノ樞密院ニ諮ラナイカ、茲ニ私ノ質問ガアルノデアリマス

又政府ノ豫メ立法ヲ爲シテ國民ニ其要項ヲ示シテ置クコトガ必要デアルト云フ、併ナガラ此法案ハ此法案ダケデハ何ノコトデアルカ國民ニハ分ラナイ、此法案ニ伴フ所ノ三十幾ツノ勅令ガ出來テ、初メテ國民ハ立法ノ趣旨ヲ理解スルコトガ出來ルノデアアル(拍手)然ルニ其勅令ハ出來テ居ラス、唯法律ノ總論ヲ此處ニ書イテ、是デ國民ニ用意ヲ要求スル、出來ルコトデヤナイノデアリマス、ソレ故ニ私ノ質問ニ對スル政府ノ答辯ニ對シテハ、私甚ダ遺憾ノ意ヲ表スルト同時ニ、政府自身ニ於キマシテモ、此立法ヲバ何處マデモ維持セントセラル、ナラバ、更ニ退イテ大ニ研究セラレル必要ガアルト思フ(拍手)私ハ此壇上ニ於テ茲ニ政府ノ當局者ト、是レ以上質問ヲ重ヌル所ノ必要ハ認メマセヌ、政府ハ返ス(モ能ク内

ニ研究シテ、憲法上及ビ政治上其他有ユル方面ヲ能ク研究シテ、來ルベキ審議ニ臨マル、コトガ、政府トシテ當然執ラレベキ所ノ責務デアラウト思ヒマス、此一言ヲ殘シテ私ノ質問ハ是デ打切りマス(拍手)

〔國務大臣鹽野季彦君登壇〕

○國務大臣(鹽野季彦君) 御答ヲ致シマス、第一點ハ憲法第三十一條ノ點デゴザイマス、憲法第三十一條ノ非常大權ハ、實ニ最後の場合デアツテ、成ベク之ニ依ラナイ方ガ宜シイノデアリマス、又憲法ノ條文ヲ見マスルト、戰時事變ノ場合ニ大權ヲ以テ、獨裁ヲ以テ自由ヲ財產ヲ束縛シ得ルコトヲ定メタモノデアリマシテ、排他的ニ命令デナケレバナラヌト定メタモノデアリマセヌ、左様解釋ヲ致シテ居ル次第デアリマス、又第二點ノ委任命令ノ點ニ付キマシテモ、先刻御答ヲ致シタ同様デアリマス

○議長(小山松壽君) 牧野良三君

〔牧野良三君登壇〕

○牧野良三君 私ハ本案ニ付キマシテ内閣關係閣僚ニ對シ大體前後八項目ニ分チマシテ質疑ヲ致シタイト思ヒマス、私ノ求メマスル所ハ、我が國家統治ノ原則ニ對シ、現内閣ト吾々議員トノ間ニ、見解ヲ異ニスルト云フヤウナ結果ニ立至ラナイコトヲ期待致シタイノデアリマス、隨テ此點ニ付キマシテハ、特ニ慎重、十分自重シテ御答ヲ戴キタイト存ジマス、只今齋藤君ノ質問ニ對スル政府ノ答辯ヨリ其態度ヲ見マスレバ、此重要ナル法案ヲ本議會ニ提出致シテ居リナガラ、總テノコトヲ屬僚ニ委セ、閣議ハ一體何ラシテ居ラレタカ(拍手)此重大ナ憲法ニ關スル問題ニ付テ閣僚ハ意見ヲ述ベマシタカ、理解ヲ致シテ居リマスカ、全文僅ニ五十箇條、是位ノ條文ノ理解ガ出來ナイ答ハゴザイマス、總理大臣ノ御病氣ハ、切ニ御加養アラントコトヲ希望スルケレドモ、代レル首席ノ國務大臣ガ、此重大ナル問題

ニ對シ、政府ノ所信ヲ國民ニ理解セシムルノ態度ヲ何故示サレマセヌ、加之法制通ナルノ故ヲ以テ、政府カラハ國務大臣トシテ司法大臣ガ立タレマシタガ、此議案ヲ讀ンデ居ラレマセヌ、私ハ議場ニ御諮リシタイ、政府ハ輕率不謹慎ダト思ヒマス（ヒヤ）

ト思フ、即チ其事ヲ述ベマシテ、私ガ是カラ進メマスル質問ノ要旨ヲ明ニ致シテ置キタイト思ヒマス

先ツ關係各位ニ此法律案ノ第一條ヲ御覽願ヒタイト存ジマス、第一條ハ如何ナルコトヲ規定シテ居ルノカ、而シテ第二條以下ニハ、如何ナルコトヲ規定サレテ居ルノカ、第一條ハ國家ガ最大ノ權限ヲ發動スルニアラザレバ、爲ス能ハザル事項ヲ規定シテ居ルノデアリマス、國家ガ最大ノ權限ヲ發揮スルニアラザレバ、爲ス能ハザル事項

ヲ第一條ニ規定シテ居ル、而シテ第二條ニハ總動員物資ニ關スルコトヲ規定シ、第三條ニハ總動員業務トハ如何ナルモノデアアルカト云フコトヲ規定シ、而シテ第四條以下第二十條マデニ於テ、國家ガ最大ノ權限ヲ發動スルニアラザレバ爲スコトヲ得ザル事項ヲ、政府ノ行政權ニ委任シテ吳レト云フコトガ明ニセラレテアルノデアリマス、規定シテアルノデアリマス、而シテ第二十一條以下十一箇條ニ於テ、發動ニ關スル準備ノ、不完全ナガラ規定ヲ盛り、而シテ第三十二條以下ト云フモノハ、全部本法律ニ違反スル行爲アリタル者ニ對スル處罰規定デゴザイマス、斯ノ如キ重大ナル法律デアルト云フコトヲ先ツ頭ニ置イテカラ、私ノ質疑ニ御答ヲ願ヒタイデアリマス

第一點、帝國憲法ト本案、此點ニ關シ私ハ何ヨリモ先ツ現内閣諸公ニ對シ、此際改メテ帝國憲法ヲ讀直シテ欲シト云フコトヲ玆ニ提議致シマス（拍手）是ガ私ノ本日ノ質疑ノ第一ノ要點デアリマス、蓋シ今申シマスル通りニ、本法律案ハ全部僅ニ五十箇條デアリマスルガ、第三十二條以下ハ處罰規定デアリマスノデ、實體ト云ヘバ、僅々三十箇條デアアル、而シテ其内容ヲ一言ニシテ言ヒマスナラバ、國家ノ非常時ニ際シ、國防ニ必要ナルコトハ、一切之ヲ舉ゲテ政府ニ委シテ吳レト云フコトノ法律案デアリ

マス、即チ其權限委任ヲ議會ニ求メラル、所ノ法律案デアリマス、即チ此處第一條ヲ見マス、第一條ニハ國防ノ目的達成ノ爲メ國ノ全カヲ——國ノ全カヲ最も有效ニ發揮セシムルヤウ、人的及ビ物的資源ヲ統制運用スト書イテアリマス、私ガ先程第一條ハ國家最大ノ權限ヲ發動スルニアラザレバ、爲スコトヲ得ザル事項ノ規定シテアルモノデアルト言ツタノハ此故デアリマス、即チ國家最大ノ權限ヲ發動ヲ目的トシテ居ル此法律ヲ、而モ第四條以下ニ於テハ、其權限ヲ全部法律ニ依リ、政府ノ行政權ニ一任シテ吳レト云フ規定デアアル、抑、斯ノ如キ法律ヲ議會ニ要求シ、政府ガ斯ル行爲ヲ爲スコトガ、我ガ憲法ノ成條ノ上ニ於テ、又我ガ憲法ノ制定ノ精神ノ上ニ於テ、果シテ許サルベキモノナリヤ否ヤ、是レ私ノ間ハントスル第一點デアリマス（拍手）又姑ク法律上ノ見解ハ之ヲ離レト致シマシデモ、政府ガ左様ナ權限ヲ行政權ニ一任スルコトヲ請フコト、請ウテ之ヲ行フコトガ、我ガ國體上許サルベキコトデアアルカドウカト云フコトヲ承リタイノデアアル、更ニ或ハ又左様ナ立法ヲスルニアラザレバ、國家非常ノ場合、政府ガ庶幾シテ居ル所ノ目的ヲ達スルコトガ出來ナイト云フ諸君ノ考デアルカ、以上ノ三點ニ付テ、關係各位ハ靜ニ欽定憲法ノ條章ヲ讀直シテ欲シ、若シ讀ンデ而シテ欽定憲法ノ其制定ノ大志ト周到ナル用意ヲ看取サレタナラバ、關係各位ハ豁然トシテ自得サレテ、此案ハ撤回サレルニ至ルデアラウト思フ（拍手）答辯ノ出來ナイノハ當然デアリマス、齋藤君ノ條理ヲ盡シタ質問ニ對シ、稍之ヲ理解セラレ、バ、此法律案ニ對シテハ齋藤君ノ意ニ副ハナイ御答辯ノ出來得ベキモノデハナイト思ヒマス

抑、本案ハ只今質問應答ノ中ニ現レタル通りニ、帝國憲法ニハ戰時又ハ事變ノ場合ニ處スベキ用意ガアル、然ルニ政府ハソレ

ヲ使ヒタクナイ、何ノ爲ニ使ヒタクナイノカ、何故 陛下御躬ヲ力ヲ以テ國民ニ此重大ナルコトヲ要求サレルコトヲ、現内閣ハ此法律ニ依ツテ阻ムカ（拍手）ソレニハ何カ困ルコトガアルノデハナイカ、率直ニ申サレタイ、私ノ確信スル所ニ依リマスル、國家ガ戰時又ハ事變、非常重大ノ時局ニ際會スル場合ニ於テ、如何ニ措置シタラ宜イカ、國民ハ如何ナル覺悟ヲ持ツベキカト云フコトハ、憲法ノ條章ニ明デアアルノミナラズ、憲法制定ノ精神ノ上ニ於テモ炳乎トシテ明瞭デアアル、其處ニ遺憾ナキ所ガ我ガ帝國憲法ノ尊嚴アル所以デアラウト思フ、然ルニ新ニ斯ル立法ニ依ツテ、國家最大ノ權限ヲ發動ヲ政府ノ行政權ニ一任サレシコトヲ望マレル其理由ガ、ドウシテモ私共ニハ解スルコトガ出來ナイノデアリマス、現内閣ハ今國家總動員ノ必要ナルコトヲ力説サレマシタ、私ハ陸軍大臣竝ニ內務大臣ニ御伺致シタイ、一體政府ニハ今マデ其用意ガナカッタノカ、アツケレドモ足ラナイト言ハレルノカ、ソレトモ又別ニ新ナル方法ニ依ル——新ナル法律ノ制定ヲ受ケルニアラザレバ、責任ヲ負フコトガ出來ナイト言ハレルノカ、何處ダ（拍手）以上ノ點ニ對シテハ特ニ陸軍大臣竝ニ內務大臣ヨリ言明ヲサレタイト思フ

抑、國家總動員トハ如何ナルモノデアアルカト言ヘバ、政府ハ今申ス第一條ニ明ニ致シテ居ルガ、之ヲ他ノ言葉デ言フナラバ、戰時又ハ事變ニ際シ國防ノ爲ニ物心兩方面ニ互ル所ノ國民ノ全智全能力ヲ集メテ、整ヘテ、之ヲ發揮スルコト云フコトガ、是ガ國家總動員ノ本體デアルト思フ、之ヲ更ニ具體的ニ申上ゲマスルナラバ、國民ノ生命ト、身體ト、財産トヲ、無條件ニ國家ニ提供セヨト云フコト、是ガ國家總動員デナケレバナラナイト思フ（拍手）シテ見マスレバ、國家總動員トハ、正ニ超法律的ノ一大事實デ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

致シテ、御考慮ヲ請フノ第一點ト致シタイ

アリマス、之ヲ頭ニ置イテ下サイ、超法律
的ノ一大事實アル、然ルニ只今政府ノ言
明ニ見ルト、此重大ナ企テ、此一片ノ法律
ヲ以テ、政府ノ手ヲ自由ニセントセラレ、
而モ内閣ガ帝國議會ト共ニ之ヲ行ハウトス
ルト云フナラバ、マダ幾分理解スル餘地モ
ナイデモナイガ、此法律ニ依リテ全部ノ權
限、全權ヲ己レノ手ニ收メントスルモノデ
アルコトハ此法律ニ洵ニ明デアリマス、内閣閣
僚諸公、此新立法ニ依ッテ、諸公ハ、或ハ物
ハ——此法律デ所謂物の資源ダケハ、之ヲ確
保スルコトガ出來ルカモ知レス、ケレドモ、
國家總動員ト云フモノハ、物の資源ヲ確保
スルノミヲ目的トスルモノデナイ、物心兩
面、ソコニ有ユル全智全能力ヲ集メルコト
デアル、集メテ以テ整ヘテ之ヲ發揮セシ
ムルコトデアル、然ラバ此方面ニ於テ心的
資源、此點ヲドウセントスルカ、先程齋藤
君ノ質問ノ重要ナル點ノ一ツデアリマシタ
ケレドモ、政府ハ御答ニナッデ居ラス、殊
ニ軍部大臣ニモ申上ゲタイ、凡ソ國防ニ物資
ノ必要ナルコトハ言フ迄モアリマセス、併
ナガラ、物資ニ依ッテ國防ヲ全クセントスル
コトノ甚シイ誤デアルト云フコトハ、先刻
御承知デアリマセウ、言フ迄モナク國防ノ
第一ノ要諦ハ旺盛ナル國民精神デナケレバ
ナラス（拍手）熱烈ナル愛國心ト、烈々タル
士氣、是ガ國防ノ中心ニナラナケレバナラ
ナイノニ、本法律案ハ餘リニ物的資源、物
資ヲ求メント欲シテ、其結果、我ガ國民ノ
「プライド」トスル所ノ、最モ特長デアアル所
ノ心的要素ヲ稀薄ナラシムル虞ガアル（ヒ
ヤヒヤ）（拍手）是ガ私ハ本法律案ノ致命的ナ
缺陷デアルト思フ、コンナ缺陷ノアル法律
ハ、當然斥ケラレルノガ、私ハ内閣諸公ノ
御職責ダト思フ、スハ火事ダト云フ時ニ、
私共ハ平素ハ持ツコトノ出來ナイ箒箒ガ持
テル、動カスコトノ出來ナイ金庫ヲ動カス
コトガ出來ル、ソレハ非常時ニ於ケル緊張

精神ノ發露ダ、正ニ非常時局ニ於テハ此緊
張精神ヲ骨子トシ、中心トシ、樞軸トシタ
ル國家總動員法デナケレバナラナイ（拍手）
然ルニ物バカリニ戀々トシタス様ナ法律、
而モソレニ依ッテ憲法ノ重大ナ保障ヲ侵害
スルト云フヤウナ法律ニ依ッテ、一體總動員
ノ目的ガ達セマスルカ、若シモ正シイ總動
員法ガ出來レバ、平素ハ僅カハシカナイカ
モ、ソレガ十ナリ、十一トナッテ働キマス
ガ、斯様ナ法律ニ依ッテ國民ニ強制セラレ
ルナラバ、平素ハ完全ニ十ノ力ガアツタ
ガガト思ッテ居デモ、愈、非常時ニナルトハ
シカ出ナイ、六シカ出ナイ（拍手）

併シスノ如ク私ガ政府ヲ責メマスノハ、
政府ノ誠意ヲ疑ヒ、此法案ノ研究ノ足ラザ
ルヲ指摘シ、決心ノ足ラザラ思フカラス
ル言ヲ費シマスケレドモ、ソレハ末デアル、
一體我ガ帝國憲法ハ、行政權ニスル超法律
的行爲ヲ許シ得ルヤ否ヤト云フ本論ニ立返
テ、質疑ヲ進メタイト思ヒマス、私ハ帝國
憲法ハ既ニ其御制定ノ當初ニ於キマシテ、
國家非常ノ場合ヲ慮ッテ重大ナル立法ガシ
テアルコトヲ言明致シタイ、即チ斯ル超法
律的事實ヲ要求シナケレバナラナイ其時
ニ於テハ、ソレハ天皇ガ朕一人ニノミ任セ
テ置ケト云フコトヲ言明サレテ居ル、是レ
即チ今問題ニナッテ居ル所ノ憲法第三十一
條ノ規定デアリマス、同條ハ特ニ戰時又ハ
國家事變ヲ豫メ想定シ、非常時局ニハドウ
シタラ宜イカト云フコトヲ、豫メ御決心ヲ
以テ國民ニ明示サレテ居ル、此憲法ノ條章
アル以上ハ、政府ハ斯ル立法ヲ爲サレル必
要ハナイト思フ、而シテ茲ニ私ハ政府ノ爲
ニ問題トナルノハ、此大權ノ發動ハ憲法三
十一條ニ於テ行ハレル、併シ一旦緩急ノ場
合、大權ガ發動サレタル時ニ、政府内閣ハ
是ガ御趣旨ヲ體シテ、國民ニ徹底スベキ用意
ヲ遺憾ナカラシメナケレバナラス、此用意
ソレガ此法律デアルト言ヒタイノデアラウ

ト思ヒマス、諸君、ソレハ國家總動員ヲ準備
シテ 陛下大權ノ發動ガ何時アッテモ差支
ナイヤウニ用意ヲシテ置ク所ノ國家總動員
準備法デアアル、英米ノ學者ハ之ヲ「ガバ
メント、オルガニゼーション」ト云ッテ居
ル、用意ヲ致シテ居ル、我ガ帝國ニ於テモ、
歐羅巴戰争ガ開始セラレルヤ、大正八年軍
需工業總動員法ナル法律ヲ、此議會ハ承認ス
ルト共ニ、内閣ニ軍需局ガ置カレ、爾來今
日ニ至ルマデ此用意ハ出來テ居ル筈デアリ
マス、出來テ居ナケレバナラス、然ルニ今本
案ノ内容ヲ見マスルト、今言フヤウナ總
動員ヲ用意スベキ準備規定ハ、僅ニ二十一
條以下十一箇條ニ、極メテ不完全ナルモノ
ガアルダケデアリマス、ソレガ實體デナケ
レバナラナイノニ、極メテ不完全ナルモノガ
十一箇條アルノミデアアル、而シテ本體ノ法律
ハ何デアアルカ、此國家總動員法案ト稱スル法
律ノ實體ハ何デアアルカト云フト動員ノ權限ノ
委任ヲ受クベキ所ノ動員授權法デアリマス、
大權法デアリマス、是ハ其例ハ伊太利ト獨逸
ニアル、獨逸ノ所謂「エルメヒチダングス」
デ「ゼツ」授權立法デアリマス、大權授權ノ立法
デアリマス、此規定ヲ御覽ナサイ、能ク讀ンデ
戴キタイ、權限ヲ吾ニ委セト云フ大權授權
ノ規定ノ外ニ、總動員ヲ準備スル規定ト云
フモノハ、不完全ナルモノ僅カ十一箇條、
而モ其十一箇條ノ不完全ナルモノハ、後カ
ラ之ヲ指摘シテ以テ諸君ノ一察ニ供シタ
イ、即チ政府ハ此大權法ヲ欲シタノデナイ
カト思フノデアリマス、先程齋藤君ガ指摘
セラレマシタ法律デアリマス、千九百三十
三年ノ三月二十四日ト齋藤君ガ言ハレタト
思ヒマス、其日ニ發布サレタ獨逸ノ授權
法、國家竝ニ國民ガ危急ノ場合ノ法律ト云
フ名稱ニ依ッテ發布サレテ居ル、其法律ノ
第一條及第二條ニ於テ、憲法ニ拘ラズ
「ヒットラー」ノ「キヤビネット」ハ、如何ナル
法律ヲモ制定スルコトヲ得トアル、其下ニ

於テ爲ス所ノモノガ、即チ此法律ト同一ノ
範疇ニ屬スルモノデアリマス、私ハ此事ヲ
指摘シテ政府當局ノ人々ノ意見ヲ求メタ
際、當局ハ、決シテ之ヲ眞似テ作ツタノデ
ハナイト言ハレマシタ、其通りデアラウ、
併シ餘リニモ事實ガ、憲法ノ法理的實情ノ
暗合スル所ニ、諸君、陛下ヲ忘レテハナ
リマセヌゾ（拍手）獨逸ニハ皇帝ハアリマ
セス、隨テ憲法三十一條ノ規定ハアリマセ
ヌ（拍手）吾々、大日本帝國ハ萬世一系ノ天
皇之ヲ統治ス、而シテ國家非常ノ場合ニ於
テハ、國民ヨ大權ヲ發動スルカラ、汝等ハ
之ニ從ヘト云フ三十一條ノ規定ガアルノデ
アリマス（拍手）危險至極ノ立法ダ、不謹慎
至極ノ立法ダ（其通り）ト呼フ者アリ）僭越
至極ノ立法ダ、斯ル立法ヲ諸君ハ何故議會
ニ協賛ヲ求メラレ

〔間違ッテ居ル〕「默レ」ト呼ヒ其他
發言スル者アリ）

○議長（小山松壽君） 靜肅ニ願ヒマス

○牧野良三君（續） 言フ迄デモナク……

〔發言スル者多シ〕

○議長（小山松壽君） 靜肅ニ願ヒマス

○牧野良三君（續） 國家重大ナル非常時ニ

際會致シマシテ、諸君、吾々國民ハ財産ガ

何デアラウ、權利ガ何デアラウ、自由ガ何

デアラウ、左様ナコトヲ私共ハ本案ニ於テ

政府ニ問題ニスルノデハゴザイマセス、國

家非常重大ノ秋ニハ、私共ハ一命ヲ捧ゲン

トスル、何ゾ權利、自由、財産等ヲ問題ニ

スルカ、併シソレハ國ニ捧ゲルノデアリ、

陛下ニ捧ゲルノデアッテ、行政權ニ捧ゲル

ノデハナイ（拍手）

〔發言スル者多シ〕

○議長（小山松壽君） 靜肅ニ願ヒマス

○牧野良三君（續） 私ハ帝國憲法ノ用意ノ

周到ナル、而シテ聖慮ノ深遠鴻大ナル、冀

クハ現内閣諸公ハ此點ニ對シテ憲法ヲモウ

一度讀直シテ、精神ノ存スル所ヲ會得セラ

レタイト思ヒマス

私ハ先程陸軍大臣並ニ内務大臣ニ御答辯ヲ要求致シマシタガ、更ニ茲ニ代表國務大臣ニ質問ノ第一點、即チ本法案ト憲法ノ關係ニ付テ三ツニ分テ御答辯ヲ要求致シマス、一、本法案ハ立案ノ根本ニ重大ナル誤アリト信ズル、政府ノ所見如何、二、本法案ト憲法第三十一條トノ關係如何、本法案ノ目的トスル所ハ憲法第三十一條ヲ以テ盡クト信ズ、政府ノ所見如何、三、本法案ニ依リ物的資源ハ或ハ之ヲ確保スルコトヲ得ベシ、然レドモ、他面人的資源ヲ喪失スルニ至ルベキモノ大ナルモノアリト信ズ、政府ノ所見如何、以上ガ私ノ本案ニ對スル質疑ノ第一點デアリマス

第二點、私ハ只今國務大臣トシテノ鹽野法相カラ、三十一條ニ關シテ、此法文ハ憲法第二章ノ規定ニ對スル例外ノ場合ヲ明ニシテ消極的ナ規定デアッテ、何等積極的意義ヲ有スルモノデナイト云フガ如キ御答ヲ承ツヤウニ聽イタノデアリマス、而シテ國家總動員ト云フガ如キ、各方面ニ互ル重要ナル事項ヲ網羅シテ規定スベキモノハ別ノ法律ヲ以テスルノガ當然デアッテ、其目的ヲ以テシテ居ル所ノ本法律案ハ、何等憲法ノ規定ニ牴觸シナイノミナラズ、憲法上ノ問題ヲ惹起スルコトナシト言ハレタヤウニ思フ、ソレハ此三十一條ノ規定ハ「本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ」ト消極的ナ形式ヲ以テ現シテアル、「妨クルコトナシ」トアル爲ニ、是ハ消極的ニ規定シタルノデアルトシ、宜シク是ハ狹ク解スルモノダト云フ御意見デアラウ、即チ例外ノ規定デアルカラ、例外規定ハ狹ク解スベシトナシ、ソコニ積極的意味ガナイト云フモ、帝國憲法ヲ讀直シテ戴キタイ、此憲法ハ欽定憲法デアルコトハ御承知ノ通りダ、陛下ガ憲法ヲ制定セラル、ニ

當リ、國家非常ノ場合ヲ豫想サレテ、非常ノ場合ニハ此憲法ノ條規アルニ拘ラズ、必要ニ依ッテハ大權ヲ發動スルゾト云フコトヲ豫メ規定サレタ、學者ノ所謂大權留保ノ規定デアリマス、大權留保デアル、憲法第二章ノ規定ニ依ッテ幾多ノ衣ヲ重ネラレタル大權ガ、愈々國家非常ノ時ニ於キマシテハ、總テノモノヲカナグリ拾テ、國家ト國民ノ爲ニ全大權ヲ發動スルト云フコトヲ明ニサレタ大權留保ノ規定デアル、此規定ヲ、例外ダ、狹義ダ、消極的ダトハ何事デス、憲法ヲ讀直シテ戴キタイ、大權ノ自由ナ活動ガ國家非常時局ニ於テ本當ニ現ハレナケレバナラス、ドンナ立派ナ人ガ政治ノ衝ニ當ラレテモ、國民ノ中ニ國家ノ總テノ隅々マデニ、手ヲ届カシメル者ハ全世界ニナイ、唯一人アル、我が陛下ノミ、サレバコソソレヲ思フテ命ヲ受ケタル伊藤公以下ノ志ヲ察シナケレバナラス、ソコデ大權ハ及バザルナク至ラザルナク、天日ノ如ク全國ニ光被スル、ダカラ國家ノ重大事、例ヘバ戰爭ノ時トカ、若クハ重大ナ國家事變ノ時ニ、此條規ガ赫々タル光ヲ放ツテ國民ニ安心ヲ與ヘルコトガ出來ルノデアリマス、私ハ斯様ニ解スル、國民ハ本條ニ對スル斯様ナ信念ヲ持ツテ居ル、政府ノ所見如何、是レ第二點デアル

第三點、私ハ今色々憲法ニ關スル方面ニ付テ所見ヲ質シマシタガ、是ハ憲法ノ表面ヨリ見タル意見ヲ進メテ疑ハ質サントシタルデアリマスガ、更ニ私ハ、憲法ノ實質ノ問題ニ入ッテ所見ヲ質シタイト思フ、私ハ國家總動員ニ關スル政府ノ重大ナル責任ト云フモノハ、大權ガ非常事變ニ發動シタル場合ニ、其大權ヲ全國ニ徹底セシメテ遺憾ナキヲ期セシムルガ爲ニ、總動員準備法規ト云フモノヲ整ヘテ置カナケレバナラヌ點ニアルト云フコトヲ先程申シマシタ、而シテ其爲ニ大正七年、今カラ二十年

前、軍需局ガ出來テ、其軍需局ガ國勢トナリ、又社會局トナリ、資源局トナリ、調査局トナリ、而シテ最近企畫院トナッテ、政府ハ此二十年間ニ互ッテ、此準備法ノ徹底ヲ期スルコトニ努メテ居ラレルコトヲ思フ、私モ亦曾テ資源局ノ委員ト致シマシテ、政府ト共ニ此方面ノ調査事務ニ從事シタ記憶ガアル、然レニ滿洲事變以來、我國ノ推進力ガ重大ナ變異ヲ來スト共ニ、此資源局ノ調査内容ガ、調査局ノ調査内容ガ、而シテ今ヤ企畫院ノ調査内容ガ、段々ト邪道ニ陥リ、正シキ軌道ニアラザル所ニ陥ッテ、遂ニ今日斯ル法律ヲ提出スルニ至ッタノデハナイカト恐レルノデアリマス（拍手）如何ニモ國防ハ重大デアリマス、而シテ機宜ノ措置ヲ執ラナケレバナラス、其爲ニ平素ニ於テ行政上ノ用意ハ爲サラナケレバナラスケレドモ、其行政上ノ用意ト、戰時ニ於ケル非常大權ト混ジテハナラナイト云フノガ私ノ所信デアリマス、換言スレバ、政府ノ行政權ト 天皇ノ大權トハ嚴重ニ之ヲ區別シナケレバナラナイト云フノガ私ノ所信デアリマス（拍手）ソレヲ犯サントスル此立法ハ、正ニ大權ノ干犯デアリマス、何トナレバ、大權ト雖モ憲法三十一條ノ場合ニアラザレバ、憲法第二章ニ規定スル所ノ臣民ノ權利義務ニ關スル保障ヲ動カスコトガ出來ナイノデアアル、大權ト雖モ憲法三十一條ノ國家非常ノ場合、即チ戰時若クハ國家事變ノ場合ニアラザレバ、臣民ノ權利義務ニ關スル規定ハ動カサレナイノデアアル、然レニ大權ニ依ラズ、此國家總動員ト云フ一片ノ法律ニ依ッテ、内容ヲ自由ニセントスルモノ、是レ即チ本法ニシテ、正ニ大權ノ干犯デアリマス（拍手）此點ニ對シテ政府ハ幾多ノ機會ニ於テ説明シテ言ハレルノニ、憲法第二章ノ臣民ノ權利義務ニ關スル規定ハ絕對的ノモノデナク、法律ノ範圍内ニ於テ權利ヲ有シ、義務ヲ負フノデアアルガ、只今提案シタモノ

ハ法律案デアアル、隨テ此法律ニ依ッテ臣民ノ權利義務ニ關スル事項ヲ規定スルコトハ、何等憲法ニ關スル所デハナイト言ハレル、併シソレハ私共ノ問題トシテ居ル所ヲ理解シナイ爲デアアル、何トナレバ、私ノ難ズルノハ左様ナ所デハアリマセヌ、本法案ガ名ヲ戰時事變ニ藉リ、非常立法ダト云フ名ノ下ニ、憲法上ノ立法事項タル所ノ臣民ノ權利義務ニ關スル事項ヲ、一括シテ、一纏メニシテ、之ヲ行政權ニ包括委讓セントシテ居ル、ソコヲ指摘シテ居ルノデアアル、個々ノ法律ニ依リ議會ノ協賛ヲ求メテ、臣民ノ權利義務ニ關スル事項ヲ規定セラル、ナラバ、何ゾ私ハ非難ヲ致シマセウ、個々ノ法律ニ依ラズシテ、一括シテ此法律ニ依リ臣民ノ權利義務ニ關スル事項ヲ、ソク其儘政府ノ行政權ニ包括委讓セントスルコトヲ企テテ居ルノデアリマス、是レ即チ立法ノ形式ヲ擬裝スルモノデアルト謂ハナケレバナラス、立法ノ形式ヲ擬裝スルガ如キ斯ル法律ニ對シテ、帝國議會ハ斷ジテ協賛シテハナラナイト思ヒマス（拍手）斯ノ如クニシテ私ハ茲ニ質疑ヲ明ニシタイ

其一ハ、本案ノ立法ハ平時ニ於テスベキ行政上ノ用意ト、戰時事變ノ際ニ於テ發動セラル、所ノ非常大權ヲ混ズルモノナリト信ズ政府ノ所見如何

其二、本案ノ立法ハ非常大權ニアラザレバ爲ス能ハザル事項ヲ、一括シテ行政權ニ包括委任セントスルモノナリト信ズ、政府ノ所見如何、此二點デアリマス

次ニ第四點、私ハ只今憲法第二章臣民ノ權利義務ニ關スル點ニ付テ注意ヲ喚起致シマシタガ、此憲法第二章ノ規定ハ憲法制定ノ沿革上特ニ重大ナル意義ヲアルモノデアルト云フコトハ茲ニ事新シク申ス迄モナイコトデアリマスガ、列國ノ沿革ヲ見マスレバ、總テ此規定ノ内容ハ血ヲ以テ獲得シタモノデアアル、然レニ我が帝國憲法ニ於テハ

陛下大御心ヲ以テ吾々ニ之ヲ授ケ給ヒ、之ヲ子孫ニ傳ヘテ永久ニ守護セヨト云フ御勅語ヲ賜テ居ル、憲法發布ニ際シテサレタ上諭ヲ拜シマスルト、「朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其ノ享有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス」斯様ニ仰セラレテ居ル、即チ臣民ノ權利及財産ノ安全ハ殊ニ貴ブ、而シテ是ハ保護スルゾ、而シテ此憲法及法律ノ範圍内ニ於テ、汝等ノ此權利ト財産ノ享有ヲ完全ニスルト云フコトヲ茲ニ宣言スルト仰セラレテ居ルノデアリマス、而シテ之ヲ完全ナラシムルガ爲ニハ、斷ジテ行政權ノ專斷ヲ許サナイト云フ趣旨ガ明ニセラレテアル、ソレガ即チ憲法義解ノ説明デアリマス、其説明ニ依リマスルト「本章掲クル所ノ條規ハ憲法ニ於テ臣民ノ權利ヲ保障スル者ナリ、蓋立憲ノ主義ハ獨臣民ノミ法律ニ服從スルニ非ス、又臣民ノ上ニ勢力ヲ有スル國權ノ運用ヲシテ法律ノ檢束ヲ受ケシムルニ在リ、唯然リ故ニ臣民倚テ以テ其ノ權利財産ノ安全ヲ享有シテ專横不法ノ疑懼ヲ免ル、コトヲ得ベシ、此レヲ本章ノ大義トス」ト明ニサレテ居ル、其意味ハ、如何ナルコトガアッテモ行政權ノ手ニ渡シテハナラス、渡サルコトガ國憲ノ專横不法ノ疑懼カラ、汝國民ヲ護ル所以デアルト云フコトヲ述ベテ、是レ即チ本章規定ノ大義デアルト、斯様ニ明ニシテアルノデアリマス、然ルニ此重大ナル憲法ノ保障、其保障アル所ノ臣民ノ權利義務ヲ、此一片ノ法律ニ依ッテ蹂躪セントシ、此一片ノ法律ニ依ッテ政府ガ行政權ヘ包括的委任ヲ受ケントシテ居ル、左様ナ法律ニ協賛スルコトハ、正ニ憲法ノ御趣旨ニ反スルモノデアルト斷言スル所以デアリマス（拍手）之ニ對シテ權利義務ノ尊重、是ガ保護ノ任ニ當ラレル司法大臣ヨリ、其言明ヲ得マスレバ幸デアリマス

第五點、既發法令ノ統一整成ニ關スル點

政府ハ此法律ニ對シ、辯解シテ曰ク、此法律ハ各條總テ今マデ既ニ發布シタ所ノ法律命令、ソレヲ統一整成シテ以テ國家事變ノ場合ニ、其運用ヲシテ圓滑ナラシメント期シタモノデアアル、決シテ憲法ノ問題ヲ惹起スルガ如キモノデナク、其内容ハ決シテ今日新ニ規定セントスルモノデハナイト辯解ヲシテ居ル、此辯解ガ宜シクナイ、此辯解ハ希クハ此壇上ニ於テハ再びセザランコトヲ希ヒ、政府ノ口ヲ緘スルガ爲ニ私が指摘致シタイ、何トナレバ、如何ニモ從來軍需工業動員法ヲ初メトシテ幾多ノ重要ナル法律ガ出、命令ガ出テ、ソレニ關スルモノガ茲ニ集ッテ居ルト云フコトハ私モ之ヲ認メマス、而シテ此點ニ於テ近衛內閣總理大臣ガ、原案ノ第二十條ト二十一條トヲ削除シタ、此二十條ト二十一條ハ集會、言論、文書ニ關スル新ナル取締制限ヲ爲ス所ノ規定デアッタノデアリマスルガ、其規定ヲ全部削除シテ、以テ世間ノ非難ヲ緩和スルト共ニ、政府役人ノ作リマシタル所ノ、此辯解ヲ有力ナラシメントセラレタル苦心ハ、之ヲ諒トセザルヲ得ナイノデアリマス、併ナガラ議員諸君ニ申上ゲタイ、如何ニモ從來出テ居ル法律ヲ集メタ點ハ認メル、併シ從來ノ法律命令ト云フノハ、少キモ數箇條、多イモノハ數十箇條アルノデアリマス、ソレヲ、少キモノハ一箇條、多キモノト雖モ僅ニ三箇條ニ總メテ、此中ヘ入レテ包括シ、其他ノモノ一切ヲ行政權ニ委任セシメントスル立法ノ形式ヲ採ッテ居ル、殊ニ注意スベキハ第二條ノ動員物資ニ關スル規定デアアル、其第一項ニ一號ヨリ八號マデ、動員物資ト云フモノハドウ云フモノデアアルカト云フコトヲ丁寧ニ記載シテアルカラ、是ダケデ宜イカト思フト、サウデハナイノデアリマス、更ニ第九號ニ至ッテ「前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル物資」ト書イテ、他ノモノモ全部一網打盡ニ此處ヘ持ッテ來テ居ルノデアリマス、及バザル所ナク、能ハザル所ナキ立法デアリマス、更ニ第三條ニ於テモ同様デ、動員業務ト何ゾヤト云フコトヲ、一號カラ八號マデ規定シテアッテ、眞面目ナ所ヲ見セルガ如クニシ、第九號ニ至ッテ何ト云フテ居ルカ「前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル業務」ト、是デヤ書カナイ方ガ宜イ（拍手）ソレバカリデヤゴイマセス、最モ注意スベキモノガ第六條デアアル、第六條ハ議員諸君ガ豫メ種々ナル非難ヲ爲サレタル爲ニ、政府ハ原案ヲ改メラレタル點ハ之ヲ多トスル、原案ニハドウウナッテ居タカト云フニ、是ハ勞務統制ノ規定デアリマスガ、勞務統制ニ對スル規定ノ原案ハ「政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲ニ必要アルトキハ勅令ヲ定ムル所ニ依リ」勅令デスヨ、「勅令ノ定ムル所ニ依リ」他ノ法令ノ規定ニ拘ラズ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得」トアツタノデアアル、ソレガ變テ「他ノ法令ノ規定ニ拘ラズ」ト云フ數文字ヲ削ラレタ、其態度ハ之ヲ多トスルケレドモ、内容ハ同ジデアリマス、第六條「政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ヲ定ムル所ニ依リ」云々「必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得」トアル、ドンナ命令デモ出來ル、其包括的ノ權利ヲ政府ニ委セヨト云フ、コンナ危險ナ法律ガ何處ニアル、先程齋藤君ガ喝破致サレタ通り、正ニ此法律ハ左ノ手デ憲法ノ條章ヲ有名無實ニシ、右ノ手デ臣民ノ權利義務ニ關スル所ノ大權ノ保障ヲ有名無實ニシ、其有名無實ニスル所ノ其法案、ソレヲ議會ニ對シテ包括的ナ白紙委任狀ニ捺印セヨト言フノデアリマス、（拍手）即チ齋藤君ガ白紙委任狀ト云フ言葉ヲ用ヒラレタノハ此點デアッテ、極メテ適切デアアル、大日本帝國議會ハ斷ジテ政府ノ要求スル

動員上必要ナル物資」ト書イテ、他ノモノモ全部一網打盡ニ此處ヘ持ッテ來テ居ルノデアリマス、及バザル所ナク、能ハザル所ナキ立法デアリマス、更ニ第三條ニ於テモ同様デ、動員業務ト何ゾヤト云フコトヲ、一號カラ八號マデ規定シテアッテ、眞面目ナ所ヲ見セルガ如クニシ、第九號ニ至ッテ何ト云フテ居ルカ「前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル業務」ト、是デヤ書カナイ方ガ宜イ（拍手）ソレバカリデヤゴイマセス、最モ注意スベキモノガ第六條デアアル、第六條ハ議員諸君ガ豫メ種々ナル非難ヲ爲サレタル爲ニ、政府ハ原案ヲ改メラレタル點ハ之ヲ多トスル、原案ニハドウウナッテ居タカト云フニ、是ハ勞務統制ノ規定デアリマスガ、勞務統制ニ對スル規定ノ原案ハ「政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲ニ必要アルトキハ勅令ヲ定ムル所ニ依リ」勅令デスヨ、「勅令ノ定ムル所ニ依リ」他ノ法令ノ規定ニ拘ラズ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得」トアツタノデアアル、ソレガ變テ「他ノ法令ノ規定ニ拘ラズ」ト云フ數文字ヲ削ラレタ、其態度ハ之ヲ多トスルケレドモ、内容ハ同ジデアリマス、第六條「政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ヲ定ムル所ニ依リ」云々「必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得」トアル、ドンナ命令デモ出來ル、其包括的ノ權利ヲ政府ニ委セヨト云フ、コンナ危險ナ法律ガ何處ニアル、先程齋藤君ガ喝破致サレタ通り、正ニ此法律ハ左ノ手デ憲法ノ條章ヲ有名無實ニシ、右ノ手デ臣民ノ權利義務ニ關スル所ノ大權ノ保障ヲ有名無實ニシ、其有名無實ニスル所ノ其法案、ソレヲ議會ニ對シテ包括的ナ白紙委任狀ニ捺印セヨト言フノデアリマス、（拍手）即チ齋藤君ガ白紙委任狀ト云フ言葉ヲ用ヒラレタノハ此點デアッテ、極メテ適切デアアル、大日本帝國議會ハ斷ジテ政府ノ要求スル

第六點、個々ノ立法ニ關スル點、私ハ一歩ヲ譲リ、政府ノ辯解ノ如ク、是ハ國家總動員ノ目的ヲ達スル爲ニ、從來ノ色々ノ法令ヲ集メタニ過ギナイノダト云フナラバ、從來ノ法令其儘デ何故不足ナノカ、陸軍大臣、內務大臣ヨリ此點ヲ御答ヲ戴キタイ、從來ノ法令デハ何處ガ不足デアアルカ、又不足ナラバ不足ナ法律ダケヲ何故立案シテ、茲ニ其具體的ナ案ヲ整ヘテ、吾々ニ協賛ヲ要求サレスカ（拍手）又統一整成スルコトガ目的デアラナラバ、何故統一整成ヲシテ吾々ニ安心ヲサセナイカ、名ヲ統一整成ニ藉リテ、代表的ナ條文ヲ持ッテ來、アトハ包括的ニ全部政府ノ權限ニ屬スルゾト云フガ如キ、斯ノノ如キ立法ヲセラレルト云フコトハ、正ニ欺瞞デアアル、欺クモノデアアル、惟フニ法律ガ足ラナイノデアアリマス、惟スル法律ニ依ッテ法律以上ノ何モノカノ力ヲ得ントスルモノデハナイカ、抑、何ガ故ニスル法律ニ依ッテ、法律以上ノ力ヲ得ントスルノカト云フニ、國家ガ戰時又ハ事變ノ際ニ應ズル爲ニハ、憲法第三十一條ガアルガ、憲法ノ第三十一條ニ據ッテ大權ノ發動ヲ乞ヒマシテモ、天皇ハ内外ノ情勢ヲ御見定メ遊バサレタル後ニアラザレバ、容易ニ御許シハアルマイ、而モ其御許シノアル場合

ニハ、必ズ茲ニ樞密院ニ諮詢サレルデアラウ(拍手)諸君、恣ニ戰時事變ヲ名トシテ、全部ノ權限ヲ實行セントスル者ニ取ツテ、此手續ガ怖イノデハナイカ、此手續ヲ省カンガ爲ニ、敢テ憲法第三十一條ヨリ別ニ、斯ル法律ニ依ツテ、國民ニ、帝國議會ニ、白紙委任狀ヲ要求セントスルガ如キ此立法ニ對シ、眞面目ナ國民ガ窃ニ恐レヲ懷クニ至ルト云フコトハ、是レ當然ノコトデアリマス(拍手)

吾々ハ此内閣ニハ此法律ヲ許シテモ宜イカモ知レヌケレドモ、此内閣ガ此法律ヲ使フノデハナイノデアアル、何人ガ使フカモ分ラナイノデアアル(拍手「サウダ」ト呼フ者アリ)現内閣ヲ信任スルトカ、不信任スルトカ云フ問題デハナイ、宜シク國民ハ子孫永久ノ爲ニ、國礎ヲ萬代ノ安キニ置クガ爲ニ、斯ノ如キ越權不謹慎ナル法律ヲ協賛シテハナラナイノダ(拍手「ヒヤ」ト云フ)

第七、或ハ政府ハ本法律ハ左様ナ大權干犯、若クハ憲法ノ規定ニ牴觸スルガ如キ内容ヲ規定シタルモノデアライ、本法律ハ大權即チ憲法第三十一條ノ運用ノ内容ト法テ規定スルモノデアルト云フ、辯解ヲサレテ居ルヤニ聞イテ居ルノデアリマス、併ナガラ大權ガ政府内閣ノ手ニ依ツテ、運用ニ關スル内容ヤ方法ヲ規定サレルト云フコトハ、正ニ圓滿無礙デナケレバナラヌ大權ヲ條件附ケルモノデアアル、憲法第三十一條ノ大權ハ、必要ナル時ニハ如何ナル命令モ出スコトガ出來、如何ナル禁止モ爲スコトガ出來ル、ソコニ此憲法第三十一條ト云フモノノ圓滿無礙ニシテ、及バザルナク、能ハザルナキ權限留保ノ意義ガアルノデアアル、戰爭ニナツテモ、事變ニナツテモ、國民ハ唯 上御一人ヲ信ジテ居レバ、國家ハ萬代ナノデアアル、然ルニオセツカイニモ内閣ハ已レノ欲スル所ニ依ツテ是方運用ノ形式ヲ定メ、内容ヲ規定シ、條件ヲ附ケントシ、而シテ

曰ク、卒然トシテ大權ノ發動アルヨリモ、豫メ規定ヲ明ニシテ置クガ方國民ノ安心ヲ買フコトガ出來テ、結局國民ノ權利義務ヲ尊重スル所以ナリト言フモ、斯ノ如キハ名ヲ國民ノ權利義務尊重ニ藉リテ、大權ノ發動ヲ條件附ケントスルモノデアリ、制限セントスルモノデアアル、圓滿無礙ナルベキ大權ノ發動ヲ條件附ケ、若クハ制限スルト云フガ如キ解釋ノ、斷ジテ容ルベカラザルコトハ、多言ヲ要スル所デハナイト思フケレドモ、政府内閣ノ人々ノ言フ所ナリトシテ、坊間傳フル所ヲ耳ニ致シマス、故ニ斯ル說ノ誤レル所以ヲ明ニスルト共ニ、政府當局ヨ、果シテ斯ル意見ヲ有スルヤ否ヤ、有ストセバ其根據如何、是レ即チ私ノ第七ノ質問デアリマス

私ハ最後ニ第八ノ質問ヲ致シテ、私ノ全質疑ヲ終リタイト思ヒマス、私ガ此案ノ提案セラルコトヲ聞キマシテ、種々ナル文獻ヲ調べテ、各國ノ事例ヲ見マスト、成程先程申シマシタ通りニ、伊太利ニ本案ト同種ノ立法ガアリ、獨逸ニモ亦其範疇ヲ同ジクスルコトノ出來ル立法ノアルコトヲ知ツタノデアリマス、併シ此兩國ハ憲法ノ效力ヲ停止シテ、以テ特異ナル、特殊ナル總動員法ヲ發布致シテ居ルノデアルト云フコトヲ、御承知願ヒタイノデアリマス、而シテ我國ニ於テ制定サルベキ所ノ、國家總動員ニ關スル諸般ノ規定ト云フモノハ、非常事變ニ於テ益我ガ帝國憲法ノ威力ヲ發揮セシムル底ノ法律デナケレバナラナイト私ハ信ズルノデアリマス(拍手)吾々國民ハ今日ノ重大ナル時局ニ對シ、總動員計畫ノ速ニ完成サレンコトヲ希望シテ已ミマセヌ、此爲ニ茲ニ注意スベキハ、ソレハ國家總動員ニ關スル計畫ト云フモノハ、憲法ノ精神ヲ極度ニ發揮セシメテ、吾々ガ祖先以來有スル所ノ愛國心ヲ中心ニシタモノデナケレバナラヌト思フノデアリマス(拍手)即チ吾々

ノ總動員計畫ト云フモノハ、愛國心ヲ極度ニ發揮セシムル所以デナケレバナラナイガ、獨逸、伊太利ニ見ル所ノモノハ、結局ハ國民ノ愛國心ヲ政府ガ要求スル所ノ、強要スル所ノ法制トナツテ居ルノデハナイカト思フノデアリマス、即チ國民ヲ信ジテ行フ所ノ皇道政治ト、國民ヲ無理ニ率キテ行カナケレバナラヌ強力政治トノ間ニハ、重大ナル差異ガアルコトヲ知ラナケレバナリマセヌ(拍手)内閣總理大臣近衛公爵ハ、昨今ノ特別議會ニ於ケル豫算委員會ニ於テ、今日ノ社會問題ノ重要性ハ、持テルモノト持タザルモノトノ關係デアルト云フコトヲ喝破サレタ、而シテ爾來持タザル國ト持テル國ト云フ言葉ニ依ツテ、各方面ニ總理ノ含蓄アル言葉ガ種々ナル方面ニ用ヒラレテ居ル、我ガ國家ハ持タザル國デアアル、其爲ニ私共ハ國家自衛權ノ發動ノ爲ニ非常ナ決心ヲ爲サナケレバナラヌ、其結果ガ戰時トナリ、事變トナルノ虞ガアルノデアアル、故ニ茲ニ政府當局者ガ、戰時事變ニ際スル用意ノ急務ナルコトヲ思フコトハ其志ヲ諒トスル、併シ諸君、我等大日本帝國ハ全世界ニ於テ唯一ツノ持テル國デアアル、持ツ所ノ國デアルト云フコトヲ誇ルコトガ出來ルノデアアル、ソレハ何デアアルカ、全世界ドンナ國モ一ツモ持タナイモノヲ我ガ國家ハ持ツテ居ル、ソレハ即チ 天皇陛下ヲ仰イデ居ルコトデアアル(拍手)其 天皇ガ憲法第三十一條ニ於テ、國家ハ戰時又ハ非常ノ場合ニ於テハ、朕自ラ大權ニ依ツテ國ノ基礎ヲ護ルト云フ趣旨ヲ闡明セラレテ居ル、此規定アルニ拘ラズ、此規定ニ據ラズシテ、國家ヲ護ル所ノ物心兩面ニ互ル總動員計畫ヲ爲サントスルコトハ、其計畫、其立法ノ根本ニ於テ、重大ナ誤ガアルト思フ(拍手)何處マデモ總動員計畫ハ樹テナケレバナラヌ、ケレドモ總動員大權ト云フモノハ、何處マデモ 陛下三十一條ノ大權デアルト明ニ

致シタイト思フ、冀クハ政府當局ノ言明ヲ得テ、此點ニ關スル疑ヲ晴シ、以テ只今上程セラレタル法案ニ對シ、議會全員ガ、正シキ理解ノ下ニ、態度ヲ明ニスルノ資料ヲ供セラレンコトヲ希望致シテ、私ノ質問ヲ終リマス(拍手)

(國務大臣鹽野季彦君登壇)

○國務大臣(鹽野季彦君) 牧野君ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、只今色々御議論ヲ拜聽致シマシタガ、要スルニ委任命令ノ問題ト、憲法第三十一條ノ問題ト、此二ツノ大キナ問題ニ觸レテ、色々御質問ガアッタノデゴザイマス

先ツ最初ニ本法案ト帝國憲法トノ關係ト云フコトデ、本法案ノ制定ガ憲法ノ精神ニ違反スルモノデハナイカト云フ御質問デアリマシタガ、其要領ハ要スルニ委任命令ノ内容ガ、廣汎ナモノデアアルデハナイカト云フコトニ歸著スルノデアリマシテ、本法案ガ廣汎ナル委任命令ノ規定ヲ含ムコトハ、戰時ニ處スル已ムヲ得ザルノ必要ニ因ルモノデアリマス、勿論憲法ノ條規竝ニ其精神ニ違反スルコトハナイト信ズルノデアリマス、廣汎ナル委任命令ヲ持ツテ居リマスル法律ハ、他ニモ其例ニ乏シクナイノデアリマス、(ノー)ト呼ビ其他發言スル者多シ)彼ノ軍需工業動員法其他ニモ先例ガアルノデアリマシテ、況ヤ國家危急ノ秋ニ於キマシテ、已ムヲ得ザル措置トシテ、之ヲ立案致シタ次第デアリマス

第二ニ憲法第三十一條ト本法案トノ關係デアリマスルガ、憲法第三十一條ハ申ス迄モナク戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ、憲法第二章ニ規定シテアリマスル國民ノ權利義務ニ關スル條規ニ拘ラズ、 天皇ノ大權ノ發動ヲ以テ、即チ法律ニ基カズ、又憲法第二章ノ條件ヲ顧慮サレズ、臣民ノ自由財産ヲ制限シ得ルコトヲ認メタモノデアリマシテ、戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テハ、常ニ排

他のニ大權ノ自由ナル發動ニ依ルニアラザレバ、臣民ノ自由財産ヲ制限シ得ザル旨ヲ規定シタルモノデハナイト存ズルノデアリマス、且ツ第三十一條ノ發動ハ、實ニ國家危急存亡ノ最後の場合ヲ指スノデアリマシテ、而モ主トシテ處分トシテ發動スル場合ヲ豫想スルモノデアリマスカラ、國家總動員の計畫ヲ豫メ之ニ據ラントスルコトハ、總當デナイト存ジマス、ソレデ……

〔發言スル者多シ〕

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○國務大臣(鹽野季彦君)(續) 國家總動員法ナル法律ガ、憲法第三十一條ノ規定ノ效力ヲ失ハシメザルコトハ言フ俟タザル所デアリマスルガ、非常ノ場合ニ際シ憲法第三十一條ノ發動ヲ必要トスル時ハ、本法ニ拘ラズ大權ノ自由ナル發動アルベキコトハ、是亦言フ俟タザル所デアリマス

〔發言スル者多シ〕

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○國務大臣(鹽野季彦君)(續) 隨テ本案ハ毫モ憲法ニ違反スル點ハナイト存ズルノデアリマス

〔發言スル者多シ〕

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○國務大臣(鹽野季彦君)(續) 尙ホ又憲法第三十一條ハ、戰時ニ於テ當然發動スベキモノデアリマセス、憲法第三十一條ガアルカト云ツテ、本法案ハ必要ダト云フ御所論ニハ承服シ得ナイノデアリマス、本法案制定ノ理由ハ、時局ニ鑑ミ戰時ノ場合ヲ豫想シテ、今カラ其準備ヲ備ヘテ置クノデアリマス、勿論戰爭ヲ豫想スルト云フ法案ハ他ニモアルノデアリマシテ、例ヘバ軍需工業動員法ノ如キ是デアリマス

〔發言スル者アリ〕

○國務大臣(杉山元君) 牧野君ニ御答致シマス、國家總動員ハ戰勝ノ目的ヲ達成シマ

スル爲ニ、兵力ノ動員バカリデナク、國力ヲ最高ニ發揮スルコトヲ目標トシテ之ヲ致スノデアリマス、而モ此總動員ノ目的ト致シマスルノハ、單ニ軍需ヲ充足致シマスバカリデナク、國民生活ヲ確保シ、且ツ國家……

〔發言スル者多シ〕

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○國務大臣(杉山元君)(續) 國家經濟ノ運行ヲ圓滑ナラシムル爲ニ本法ヲ設ケラレタノデアリマス、即チ軍需工業動員法ダケデナク、國民生活ヲ確保シ、且ツ長キニ互ル戰爭ニ對シマシテ、國家ノ經濟ヲ圓滑ニ運行セシメタイト云フ考ノ下ニ、本法ガ立案サレテアルノデアリマス、隨テ此點ニ付キマシテハ議員各位ノ御諒解ヲ深クシテ戴キタイト思フノデアリマス、決シテ之ヲ以テ國民ノ自由權利ヲ束縛シ、或ハ壓迫スルト云フヤウナコトハ、毛頭考ヘテ居ルノデナク、寧ろ長キニ互ル戰爭ニ方リマシテ、國民ヲシテ生活ニ不安ヲ感ゼシメザルガ如ク計畫ヲシ、實施ヲ致スノデアリマス、是ハ歐洲大戰ニ於ケル露西亞及ビ獨逸ノ狀況ヲ御考ニナツタアラバ、最モ能ク御分リニナルト思フノデアリマス

〔失言々々〕「取消セ」「不謹慎々々々」ト呼ビ、其他發言スル者多ク議場騷然

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○國務大臣(杉山元君)(續) 此例證ハ國家總動員ニ關スル準備ガ不十分デアッタ結果ガ茲ニ至ツタノデ、此事柄ハ極メテ重大ナルコトデアアルノデアリマス(ヒヤ／＼)政府ト致シマシテハ此重大ナル國家ノ存亡ニ關スル時機ニ於キマシテ、國民ノ熱烈ナル忠誠ニ依リマシテ、自發的ニ協力ヲ期待致シマスルコトハハ勿論デゴザイマス

〔ソレダケデ宜イ〕「靜肅ニ聽ケ」ト呼

ヒ其他發言スル者多シ

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○國務大臣(杉山元君)(續) 併ナガラ之ヲ調整ヲ致シマシテ、聊モ無駄ノナイヤウニ……

〔發言スル者多シ〕

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○國務大臣(杉山元君)(續) 一途ニ御奉公ノ出來ルヤウニ致シマスル爲ニハ……

〔發言スル者多シ〕

○議長(小山松壽君) 山崎君重ネテ注意致シマス

○國務大臣(杉山元君)(續) 本法ヲ制定スル必要ガアルト存ズルノデアリマシテ、之ヲ以テ此法令ガ出來マシタカラ、直チニ是ノ全部ヲ實施發令致シマスルトカ、或ハ又苛酷ナ實行ヲスルト云フヤウナコトハナイノデアリマスルガ、ソレ等ニ關シテハ、牧野君モ能ク御諒解ヲ願ヒタイトデアリマス、此點ヲ御考ヘ下サツタナラバ、只今私ニ御質問ニナツタ點ハ、明瞭ニナルデアラウト存ズルノデアリマス、殊ニ今日ノ時局ニ於テ、長期ノ作戰ヲ遂行スルニ當リマシテ、國際ノ關係上、將來ニ於キマシテ如何ナル重大ナル事態ガ發生スルヤモ測リ知リ得マセヌノデ、此際ニ於テ此總動員法ノ制定ヲ爲シ、之ニ對スル國民ノ認識諒解ヲ求め、之ニ對スル計畫準備ヲ致スコトニ依リマシテ、初メテ圓滑ニ急ニ應ズル所ノ變ニ處スルコトガ出來ルノデアリマス、牧野君ハ軍需工業動員法其他ノ臨時立法ガアルカラ、之ニ依レバ宜シイノデハナイカト云フ御尋デアアルノデアリマスカ、軍需工業動員法並ニ其他ノ臨時立法ハ、只今ノ支那事變ニ對シテ制定サレタモノデアリマシテ、將來萬一更ニ大ナル事態ノ發生致シマスコトヲ考ヘル場合ニ於キマシテハ、是デハ忍ブコトハ出來ヌノデアリマス(拍手)隨テ是等

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○國務大臣(末次信正君) 御答致シマス、國家總動員ニ關シ從來用意ガナカッタカ、又從來アツタモノハ足ラナイノカト云フ御質問ニ對シマシテハ、只今陸軍大臣ノ御答ニナリマシタ所ニ全部同意デアリマス、國家總動員法ノ必要ハ、複雜ナル經濟關係上、今日ノ時局ニ於キマシテハ已ムヲ得ザルコトデアリマシテ、國民ニ對シマシテハ、豫メ之ヲ理解シテ置イテ貰ヒタイトデアリマス(政府ガ理解シテ居ナイ)ト呼フ者アリ)日本精神、忠君愛國ノ魂ハ最モ必要ナ點デアリマシテ、此精神無クシテハ、國家總動員ハ全キヲ得ナイコトハ申ス迄モアリマセス(ソレデ宜イデヤナイカ)ト呼フ者アリ)此精神ヲ基礎トシテ本法ノ實施ヲ期スルコトハ無論ノコトデアリマス、政府ハ我ガ日本國民ナレバこそ、此法案ノ精神内容ヲ理解シ、必ズ御協力ヲ得ルコトヲ期待シテ居ルノデアリマス(拍手)

ノモノヲ綜合致シマシテ、此法令ニ足ラザル所ヲ加ヘ、サウシテ此度ノ案ガ立案サレタノデアリマス、斯ク致シマスコトガ、此總動員ニ關シマスル諸事項ヲ調整シ、連繫ヲ良クシ、無駄ノナイヤウニ致シマスル所以デアリマシテ、綜合的ノ法令ヲ制定致シマスルコトノ方ガ、圓滑敏速ニ事ヲ運ビ得ルト考ヘテ居ルノデアリマス

〔發言スル者多シ〕

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○國務大臣(末次信正君) 御答致シマス、國家總動員ニ關シ從來用意ガナカッタカ、又從來アツタモノハ足ラナイノカト云フ御質問ニ對シマシテハ、只今陸軍大臣ノ御答ニナリマシタ所ニ全部同意デアリマス、國家總動員法ノ必要ハ、複雜ナル經濟關係上、今日ノ時局ニ於キマシテハ已ムヲ得ザルコトデアリマシテ、國民ニ對シマシテハ、豫メ之ヲ理解シテ置イテ貰ヒタイトデアリマス(政府ガ理解シテ居ナイ)ト呼フ者アリ)日本精神、忠君愛國ノ魂ハ最モ必要ナ點デアリマシテ、此精神無クシテハ、國家總動員ハ全キヲ得ナイコトハ申ス迄モアリマセス(ソレデ宜イデヤナイカ)ト呼フ者アリ)此精神ヲ基礎トシテ本法ノ實施ヲ期スルコトハ無論ノコトデアリマス、政府ハ我ガ日本國民ナレバこそ、此法案ノ精神内容ヲ理解シ、必ズ御協力ヲ得ルコトヲ期待シテ居ルノデアリマス(拍手)

○牧野良三君 此席ヨリ御辭ヲ願ヒマス

〔登壇々々〕ト呼フ者アリ

〔牧野良三君登壇〕

○牧野良三君 只今三大臣ヨリ御答辯ヲ戴キマシタガ、御三君ハ皆本日提案ノ國家總動員法案ヲ御理解ニナッテ居リマセヌ〔ヒヤヒヤ〕、拍手何ゾ憲法トノ關係等ヲ御研究ニナッテ居ルト見ルコトガ出來マセウ、本案ハ私ガ憂ヘタル如ク、全ク企畫院ニ於ケル事務當局ガ作成セラレタノミデアリマシテ、閣議ハ此點ニ於テ何等ノ調査モ研究モ明ニ致シテ居ナイト云フコトガ明ニナリマシタ〔拍手〕遺憾ニ堪ヘマセヌ、此點ニ於テ三大臣ノ答辯デ、私共ガ如何ニ政府内閣ノ意見ヲ理解シテ、此法律ノ審議ヲ進メテ行クカト云フコトニ惑ハザルヲ得ナイノデアリマス、私ハ再質問ニ關スル資料ヲ整ヘテ參リマシタ、ケレドモ、最早之ヲ問フモ答辯ヲ得ルコトノ出來ナイノハ明カデアリマス、唯茲ニ申上ゲテ置キタイ、總動員計畫ガ出來テ居ルノカ居ナイノカ、三人ノ方カラ一人モ聽クコトガ出來ナカッタ、陸軍大臣竝ニ内務大臣カラモ之ヲ聽クコトガ出來ナイ、出來テ居ルノデスカ、出來テ居ナイノデスカ、三十一條以上ノ權力ヲ法律ニ依ッテ行政權ガ得ナケレバ計畫ガ立タナイノデア

ニ皮肉ニナルダケデ、何等國家ノ爲ニ得ル所ガナイト存ジマス、冀クハ本法案ヲ兩三日ノ間ニ是非讀ンデ、今日以後ノ質問ニ對シ、十分ナル應答ノ出來ル準備ヲセラレンコトヲ希望致シマシテ、私ノ質問ヲ打切りマス〔拍手〕

○服部崎市君 本案ニ對スル殘餘ノ質疑ハ他ノ日程ト共ニ延期シ、本日ハ是ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス

○議長〔小山松壽君〕 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長〔小山松壽君〕 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、明二十五日ハ定刻ヨリ本會議ヲ開キマス、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後六時四十六分散會

ルカ、得ナクテモ出來ルノデスカ、茲ニ問題ノ中心トナルノハ、第一條ヨリ第二十條ニ至ル規定ノ如何ナルモノデアルカラ理解サレテ居ルカ、而シテ斯様ナモノハ總動員立法ノ中ニ存在ヲ許スベキモノナリヤ否ヤ、二十一條以下ノモノガ、正ニ所謂諸公ノ期待サレル總動員立法ノ内容ノ根柢ヲ成サナケレバナラナイモノデハナイカト云フ點デアリマス〔拍手〕而モ此二十一條以下ノモノハ頗ル杜撰デアリマス、杜撰ナ所ヲ指摘シテ、以テ企畫院ハ何ヲシテ居ルカ、從來ノ資源局ハ何ヲシテ居ルカト云フコトヲ問ヒタイノデアリマスルガ、之ヲ問フコトハ徒

衆議院議事速記録第十六號中
正誤

三一頁四段一六行「加藤鐵造君」ハ削除